

数研研究レポート 15

マス・コミの効果Ⅲ

— 回答誤差の分析 —

1966年3月

統計数理研究所

東京都港区南麻布4丁目6-7

マス・コミの効果調査委員会

委員：林知己夫，西平重喜，鈴木達三，野田一雄
越谷和子，内野節子

なお、この調査の運営には第2研究部第1研究室が当っている。

当研究所では、現在Annals of the Institute of Statistical Mathematics と統計数理研究所集報とを発行している。

このレポートは研究調査のデータの発表を目的とし、必要に応じて発行する。

数研研究レポート 既刊

No. 1	エユースの伝わり方	1954年	江刺調査中間報告
No. 2	マス・コミの効果	1956年4月まで	(絶版)
No. 3	“ (改訂版)	1957年12月(EFⅨ)まで	(絶版)
No. 4	投票した人・棄権した人	1958年	(絶版)
No. 5	国民性の研究 第Ⅱ次調査	その1	1959年(絶版)
No. 6	国民性の研究 第Ⅱ次調査	—増補改訂版—	1959年
No. 7	国民性の研究 岐阜吟味調査	1960年	
No. 8	国民性の研究 岐阜調査	(1963年)	
No. 9	研究費，研究成果および研究価値に 関する模型解析	1963年	(絶版)
No. 10	少年少女の常識	1964年	
No. 11	国民性の研究 第Ⅲ次調査	1964年	
No. 12	成年の常識および職業の社会的評価	1964年	
No. 13	大学に於ける数学専門教育の実状	1965年	
No. 14	国民性の研究 1965年調査	1966年	
No. 15	マス・コミの効果Ⅲ—回答誤差の分析—		

統計数理研究所
東京都港区南麻布4丁目6-7

電話：東京(444)4213

© 1966年

も く じ

§ 0. ま え が き	
§ 1. 調査企画の実施	3
1. 1 サンプリングと調査状況	3
〔 1. 1. 1 〕 調査の目的	
〔 1. 1. 2 〕 サンプリング	
〔 1. 1. 3 〕 調査状況	
〔 1. 1. 4 〕 郵便調査の企画	
1. 2 分析の方法	7
〔 1. 2. 1 〕 面接調査法の構造	
〔 1. 2. 2 〕 実地的な分析について	
〔 1. 2. 3 〕 EF-XXIV 調査のモデル解析	
〔 1. 2. 4 〕 質問が U 個の選択肢をもつ場合、各 bias の χ^2 -検定	
1. 3 分析および集計結果の概要	20
§ 2 EF-XXIV における層別表	24
2. 1 地域別にする東京都 23 区の層別	24
2. 2 調査員割当別にする層別	24
2. 3 層別地図	24
§ 3 時事日誌	34
1964. 12. 1 ~ 1965. 5. 20	
1965. 5. 21 ~ 1965. 11. 11	
§ 4 回答の分析表	39
4. 1 分析の一覧表	39

4.2 割当別層別にする各層の回答数	40
--------------------------	----

分析表

§ 5 集計表	52
---------------	----

5.1 質問の一覧表	52
------------------	----

5.2 集計表の見方と注意	54
---------------------	----

集計表

§ 6 調査票リスト	91
------------------	----

§0 ま え が き

0.1 EF-XXIV, EF-XXV 調査

この EF-XXIV, EF-XXV 調査は、マス・コミュニケーションの効果 (effect) を研究するために、統計数理研究所が実施している第 24, 25 次調査である。EF-XXIV は 1965 年 5 月 21 日～5 月 26 日に、EF-XXV は 1965 年 11 月 12 日～11 月 24 日に実施した。

なお、この研究のため 1954 年以来半年おきに調査をし、その他にも随時調査をしている。それらを総括した結果については、当研究所の機関誌や各種の学会で発表している。(§1 の巻末に関係文献を記載)

特に EF-XXIV では、この目的と同時に、面接調査にあらわれるノン・サンプリング誤差の分析についてモデル解析を行つた。§1 は主にこの企画と分析のたゆに当てられている。得られた回答から、調査対象の真の意見と、質問文から来る偏りおよび調査員に原因のあるゆがみとを如何に分析するか、そのアプローチの一端を示した。

EF-XXV は EF-XXIV の分析の継続中に実施され、そのため結果を EF-XXIV と同時に報告することになった。

0.2 サンプリングと調査状況

EF-XXIV と EF-XXV のサンプリングは同時に行われた。東京都 23 区の投票区を確率比例層別 2 段サンプリングによつて 60 えらび、それらの投票区の有権者名簿から等間隔サンプリングで合計 2400 人のサンプルをとつた。そのうちの半数のそれぞれが EF-XXIV および EF-XXV に割当てられた。その結果、EF-XXIV, EF-XXV のサンプル・サイズは各々 1200 人、1184 人となる。

さらに EF-XXIV においては、回答分析のため二種類の調査票を作成し(白調査票、赤調査票)、その各々に 600 人ずつのサンプルを割当ることにした。

実際に調査できたサンプルは

EF-XXIV {	白調査票	373 人	(62.2%)
	赤調査票	377 人	(62.8%)

EF-XXV 8 1 1人 (68.5 %)

である。

§ 1 調査企画と実施

1. 1. サンプルリングと調査状況

〔 1. 1. 1 〕 調査の目的

EF-XXIV 調査は「まえがき」にも述べたように、前調査を受継いで各継続質問に対する意見の変化と新しい情勢に対応した新質問に対する意見を調査するのが目的であるが、同時に調査法研究の一環として、このような面接調査にあらわれるノン・サンプルリング誤差に対する分析も出来るように企画した。

ここでノン・サンプルリング誤差の分析にとりあげた方法は、質問文のちがいによるものと調査員に原因のあるゆがみとを調査地区を考慮して分析してゆこうとするものである。そこで実際のサンプルリング企画は次のようなものにした。

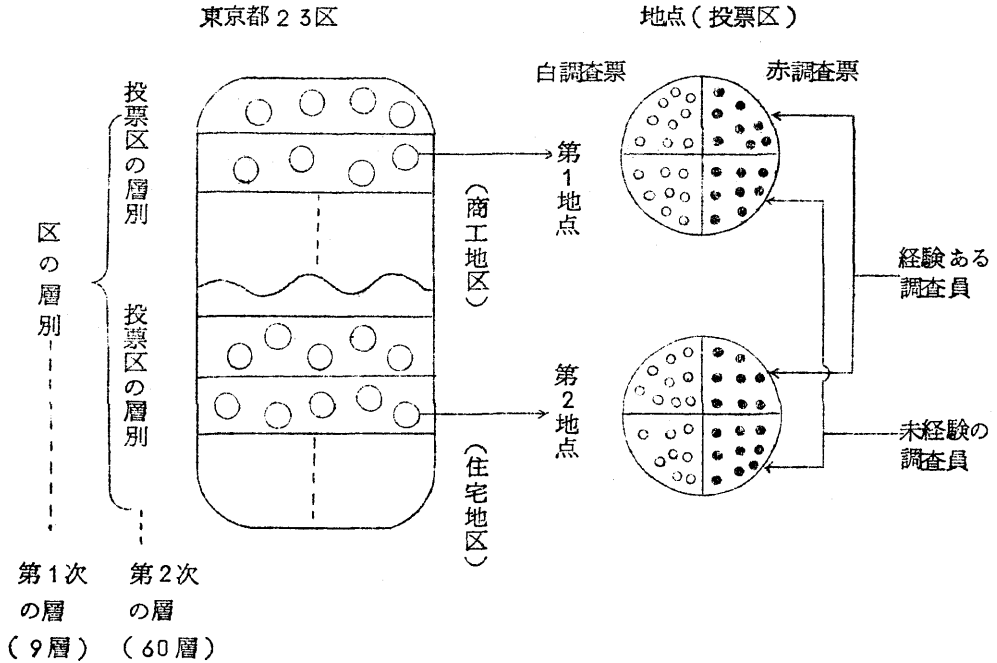
〔 1. 1. 2 〕 サンプルリング

調査対象は調査時における東京都23区の有権者で、昭和39年12月現在の基本選挙人名簿から、§ 3：3.1表に示されるごとく層別二段サンプルリングによつて、60層、60地点、1200人のサンプルを抽出した。

まず、国勢調査の職業分類、産業分類および移出入人口統計の結果にもとづいて、23区を9箇の第1次の層に分け、その各層を現在にいたるまでのEF調査の資料から等しい大きさ（95000人～99000人）をもつように細層別した。この間、大きさをそろえるために、区による層別の枠をはみ出したものもあるが、これらは相互の層の特性を考慮しておこなつた。かくして全体の層の個数は60層となる。それぞれの層から一投票区をその大きさに比例した確率で抽出し、各地点において20名を等間隔サンプルリングによつて抽出した。結局、60層、60地点、サンプルサイズ1200人となる。

調査員によるバイアスの問題としては、ここでは調査の経験のある調査員と、未経験の調査員との調査成果を比較することにした。調査員はいくつかの大学の学生で、あらかじめ資料をとつて、地点数と対応する60名のうち半数を経験のある調査員、他の半数を未経験の調査員として採用した。

第 1. 1 図



まえにも述べたとおり、これらバイアスの比較をするために、調査員の地点への割当はインターベネトリートな方法をとった。つまり経験ある調査員と未経験の調査員との対をつくり、これらの組合せに 2 地点を割当てる。各組の調査員は各人 2 地点を受持つて、それぞれの地点のサンプルの半数を調査することになる。このもようを表わしたものが、§ 3 : 3. 2 表である。

なお、調査員を地点へ割当る手続きは、ランダムに行うのが望ましいが、実際上は調査員の現住所から考えて、行動半径が拡がらないように選別した。これは調査可能な地区における調査員の層別と考えてよいだろう。

さらに、質問文やリストの影響の比較をするため、いくつかの質問をスプリットして二種類の調査票を作成し、これを「白調査票」、「赤調査票」と名づけた。各地点のサンプルの半数が白調査票、他の半数が赤調査票で調査を受けることになる。合計すれば 1 2 0 0 名のサンプルのうち、白調査票を受けるものが 6 0 0 名、赤調査票を受けるものが 6 0 0 名となる。

〔 1. 1. 3 〕 調査状況

1 2 0 0 人のサンプルのうち、調査できたものは 7 5 0 人 (6 2. 5 %) で、その内容は次のとおりである。

サンプル数 1, 2 0 0 人	調査できたもの 7 5 0 人	白調査票によるもの 3 7 3 人 (6 2. 2 %)
		赤調査票によるもの 3 7 7 人 (6 2. 8 %)
	調査不能 4 5 0 人	

(なお、分析計算には白調査票 5、赤調査票 5 が追加されている)

また調査後、回収の際に第 1. 1 表のような調査状況を各調査員に記入させた。その結果は大体において調査前の予想と一致し、層別の基準など企画の妥当性を保証する一資料となつた。

さらに調査不能となつたサンプルのうち、第 1 8、2 4、3 3、4 4 地点を追求調査し、計 1 8 人を調査することができた。(§ 3 : 3. 2 表中に示す)。

〔 1. 1. 4 〕 郵便調査の企画

調査不能となつた全サンプル (4 5 0 人) と調査できたサンプルのうち一部 (2 4 5 人) をさらに郵便で再調査することにした。面接調査で応答のあつたもののうち、郵便調査する地点は § 3 : 3. 2 表における第 1 群、第 2 群、第 8 群および # 2 2 の第 1 2、5 5 地点である。

郵便調査の目的は、調査不能になつたサンプルにはその原因をただし、職業、学歴別にみてどのような分布をしているかを明らかにすることである。また調査できたサンプルについては、面接調査時におけるレスポンスと郵便調査に対するそれとの差異を見出すこと、特に調査員の調査上のゆがみをただすことが目的となる。面接調査と郵便調査とのレスポンスの差がわかれば調査不能になつた層の推定が可能になるわけである。

なお、添付する切手の種類によつて、返信率に有意な差を認め得るかどうかを調べるために異なつた切手の種類による 4 群、料金別納の 1 群、合計 5 群 (それぞれ 1 3 9 枚) に分けて郵送した。切手の種類については、オリンピ

ツクおよび国体の記念切手3種と普通郵便切手である。

第 1. 1 表

EFXXIV-4
1965-5-25

調査員の方へ

今後の調査の参考資料にしますので下記ご記入の上係までお願いします。

〔右の欄の該当する数字を○でかこみ、必要〕
〔があれば余白に要点を記入して下さい〕〔受持地点の番号を入れて下さい〕

お願いすること	地点番号 →		
調査地点までの交通の便は	①便利(行きやすい)	1	1
	②不便(行きにくい)	2	2
調査地点は交通機関だけで	①よい	1	1
	②降りてから 分歩く	2 ~~~ 分	2 ~~~ 分
調査地点の付近は、おもに	①住宅地	1	1
	②商店街	2	2
	③工場が多い	3	3
	④会社、官庁などが多い	4	4
調査地点付近の住宅は	①邸宅が多くて静かな所	1	1
	②新らしい家が多い	2	2
	③小さな家やみすぼらしい家がひしめき合っている	3	3
	④団地	4	4
	⑤商店と一諸	5	5
	⑥町工場と一諸	6	6
調査地点の範囲はどのくらいですか? 一巡り歩いて		~~~ 分	~~~ 分
調査相手の家を訪問するとき ①道順はすぐ分つた		1	1
〔裏に案内図を書いて下さい〕 1)番地の案内札があつた	イ	イ	イ
〔せんか〕 ロ)明細図をみた(どこで)	ロ〔どこ〕	ロ〔どこ〕	ロ〔どこ〕
②道順が分らず苦勞した (どこで尋ねるのがよいですか)			
〔今度他の人が同じ調査地点へいく時は(何処、誰)に尋ねると早くサンプルの家が見つかると思いますか 右の欄に具体的に記入して下さい〕			
この下は調査地点には関係ありません			
これまでに調査の経験がありますか	1 研究所の調査を	<input type="text"/> 回した	
	2 他の調査をしたことがある		
○ 今度の調査のご感想は			

1.2. 分析の方法

EF-XXIV 調査の回答分析におけるモデル構成のための理論的背景を概説しよう。まずはじめに、面接調査における回答誤差の分析について一般的な考察をすすめ、つぎにその結果を EF-XXIV のモデル解析に応用する。

なお、回答分析法の詳細な展開、特に reliability の量的表現の問題は今後とも研究を重ねてゆく予定である。

いま、与えられた調査課題 Γ についてある調査対象 S を調査しようという場合、 Γ が定量的であれば、調査によつて期待されるものは数直線上に分布をもつ一つの変量 Y でもつて表わすことのできる。例えば特定学年の生徒の身長とか、各家庭の年間の収入などを調査しようという場合を考えると、各調査対象の“標識”——生徒の身長、家庭の収入——は数直線上に一定の順序でもつて配置され、その分布は点 y_i における度数 f_i によつて決定される。この意味においては、標識 y_i の全体を母集団と考え、それからのサンプリング調査を考えてゆけばよいわけで、問題点は明確である。

ところで、 Γ が定性的な場合にも、この方法を適用することは可能であろうか？例えば、有権者の保守、革新の傾向を何らかの意味においてとらえようとする場合を考えてみよう。このとき上述の方法を適用するには、数直線上に“標識”を考え得るための一つの尺度の導入が必要である。もちろん、その尺度はいろいろな方向から異つた密度でもつて導入されるであろう。もつとも単純な場合を想定すると、調査対象の各標識が n 次元ユークリッド空間に配置され得るような尺度である。一般に各調査対象の“潜在構造”にこのような順序をもたせることは困難であろう。しかしながら、ここで取扱うモデル解析には、潜在構造として順序をもつ連続体の存在を仮定する。

さて、 Γ についてこのような尺度の導入が可能である場合にも、実際に作成した質問を調査に用いるとき、当然期待される結果、“真値”からのずれが予想される。面接調査においては、さらに調査員に由来する片寄りがこれに付加されるであろう。われわれはこの二種類の寄与にも尺度の導入の可能性を仮定して、それぞれに次元をもつた広がり——数空間を与える。かくして Γ についての潜在構造の上の分布から、 Γ を調査するための質問群 $\Gamma_1, \Gamma_2, \dots, \Gamma_p$ と調査員のシステム T とを結合したものゝ潜在構造の上の分布を

考えることになる。

さて、面接調査における回答の分析には、この潜在構造の存在のもとに、つぎの“response function”なるものを考える。つまり、上述のシステムで調査を実施するとき、各調査対象から得られる“Yes”の回答率は、その調査対象が潜在構造に位置する点の函数とみなす。常識的には、潜在構造で大きな値をとる調査対象の回答率は1に近いといえるであろうし、小さな値をもつ調査対象については逆のことが考えられる。そして、これに質問の特性の寄与と調査員の寄与が関係してくるわけである。一般に質問群 $\Gamma_1, \dots, \Gamma_\nu$ については、種々の場合が考えられるが、EF-XXIVにおいては、それに対応するresponse functionが各factorの和に分解される場合について質問の特性からくる寄与と調査員のそれとを分析することを目標にした。

以上のことがらを数学的に表現すると、つぎのようなモデル構造となる。

〔 1.2.1 〕 面接調査法の構造

設定された調査対象の集合 S について、調査目標である一つの課題 Γ がつぎの条件を満足するとき、 Γ は S について尺度の導入が可能であるという。連続体（ここでは ν 次元ユークリッド空間をとる） $R = \{\mathcal{Y}\}$ ； $\mathcal{Y} = (y_1, y_2, \dots, y_\nu)$ をとつて、写像

$$(1.1) \quad \phi^* : S \rightarrow R$$

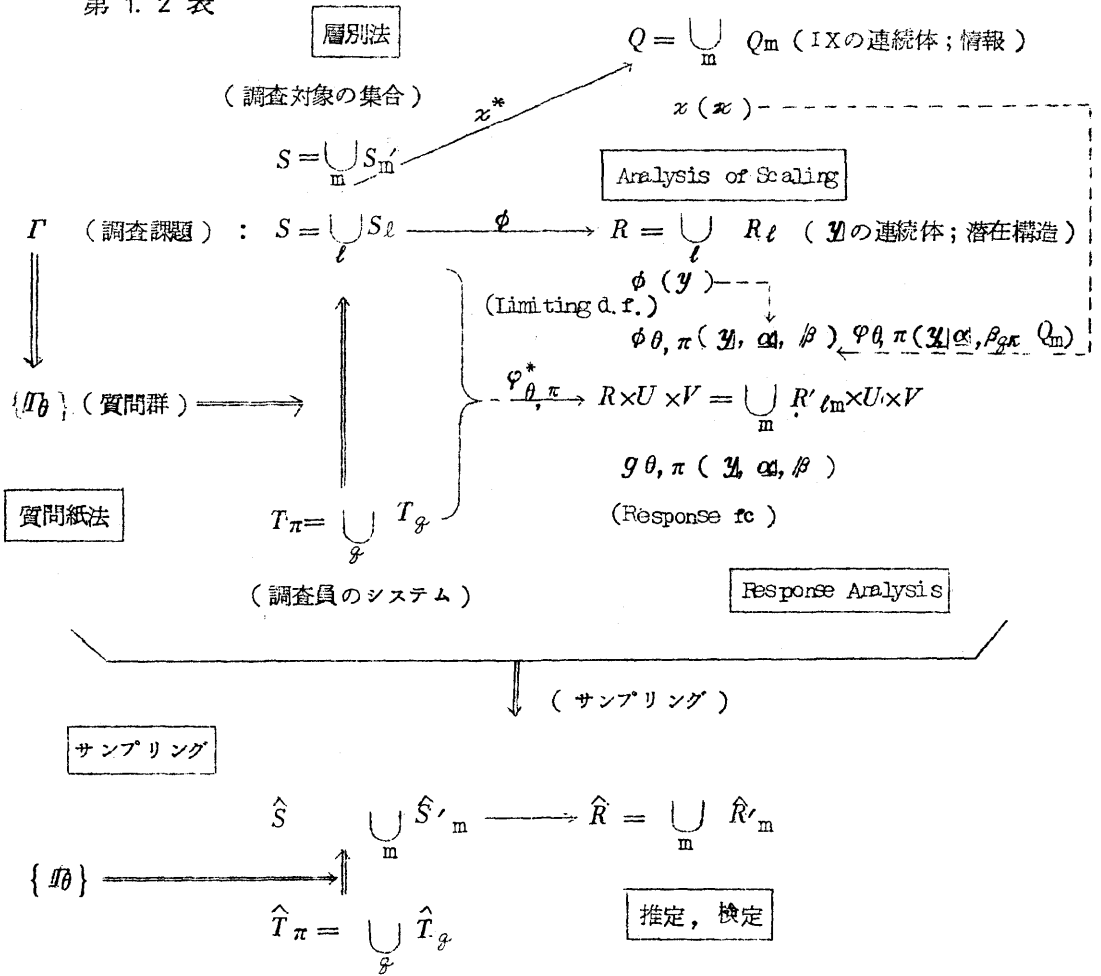
の存在が保障される質問群 $\Gamma = (\Gamma_1, \Gamma_2, \dots, \Gamma_\nu)$ を構成することができること。

さて写像 ϕ^* によつて、 Γ は R の中に一つの分布をもつことになるが、これを ϕ^* によつてひきおこされた \mathcal{Y} の分布とよぶことにしよう。さらに、 \mathcal{Y} は極限分布として連続な密度函数 $\phi(\mathcal{Y})$ をもつものとし、今後 \mathcal{Y} の分布を $\phi(\mathcal{Y})$ と同一視してとりあつかうことにする。つまり

(1.2) $Pr\{\mathcal{Y} < \mathcal{Y} \leq \mathcal{Y} + d\mathcal{Y}\} = \phi(\mathcal{Y}) d\mathcal{Y}$
は $\mathcal{Y} < \mathcal{Y} \leq \mathcal{Y} + d\mathcal{Y}$ に位置する調査対象の全体に対する比率を表わすものと解してよい。かくして調査の目標は \mathcal{Y} の平均値 $\mu = \{\mu_1, \dots, \mu_\nu\}$

$$(1.3) \quad \mu = \int_R \mathcal{Y} \phi(\mathcal{Y}) d\mathcal{Y}$$

第 1.2 表



を推定することになる。

しかしながら、面接調査においては、これだけの設定だけでは十分でない。質問群 Γ には調査課題 Γ の本質からはずれた寄与が考えられ、さらに調査員に原因のあるゆがみを考慮しなければならないからである。尺度の導入可能な質問群の族 $\{\Gamma_\theta\} \theta \in \Theta$ を分析することは質問紙法の目標となる。ここで、上記の族の各 Γ_θ の Γ からはずれた特性からくる寄与、および調査員のシステム T_π による寄与について尺度の導入が可能であるということを、つぎの写像 φ_θ, π の存在によつて定義する。つまり連続体、

$$U = \{ \alpha \} ; \alpha = (\alpha_1, \alpha_2, \dots, \alpha_\nu)$$

α_i は Γ_i の特性からくる寄与 ($i=1, \dots, \nu$)

$$V = \{ \beta \} ; \beta = (\beta_1, \beta_2, \dots, \beta_K)$$

K は T_π における調査員の総数,

β_κ は T_θ の κ 調査員の寄与 ($\kappa = 1, 2, \dots, K$)

をとつて、写像

$$(1-4) \quad \varphi_{\theta, \pi}^* : S \rightarrow R \times U \times V$$

の存在が保障される場合、 $\varphi_{\theta, \pi}^*$ によつてひきおこされる密度函数 $\varphi_{\theta, \pi}$ (y, α, β) を $\phi(y)$ のときと同様に考えるとき、条件

$$(1-4') \quad \int_{U \times V} \varphi_{\theta, \pi} (y, \alpha, \beta) d\alpha d\beta \equiv \phi(y)$$

を満足するならば、 (Γ_θ, T_π) は尺度の導入が可能であるという。今後われわれは、このようなシステムの族 $\{ \Gamma_\theta, T_\pi \} \theta \in \mathbb{H}, \pi \in \Pi$ を考えてゆくことにする。

$\phi(y)$ は Γ によつて付与された分布と定めたが、むしろ条件 (1.4') によつて、族 $\{ \Gamma_\theta, T_\pi \} \theta \in \mathbb{H}, \pi \in \Pi$ の中で $\varphi_{\theta, \pi}$ の y についての周辺分布と考え、 θ, π に無関係に定まるものと定義する方が自然かも知れない。

さらに、 (Γ_θ, T_π) に対してつぎのような response function $0 \leq g_{\theta, \pi}(y, \alpha, \beta_\kappa) \leq 1$ を考える。つまり $g_{\theta, \pi}$ はシステム (Γ_θ, T_π) によつて、 $(Y, A, B_\kappa) = (y, \alpha, \beta_\kappa)$ に位置する調査対象から Positive response を得る確率を示し (ここでは "Yes", "No" - タイプの質問のみを考える) ,

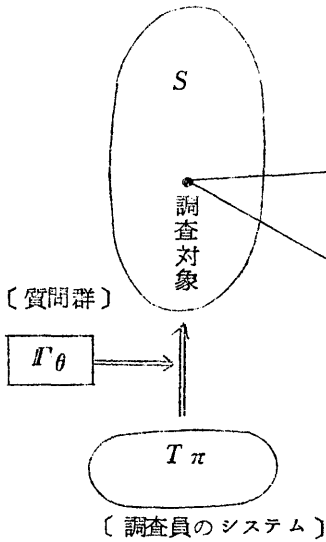
$$(1.5) \quad \int_{R \times U \times V} g_{\theta, \pi}(y, \alpha, \beta_\kappa) \varphi_{\theta, \pi}(y, \alpha, \beta_\kappa) dy d\alpha d\beta_\kappa = P_{\theta, \kappa}$$

は Γ_θ 質問群, κ 調査員によつて Positive response の得られる確率を示す。つまり設定される調査対象の集合 S から、質問票 Γ_θ をもつた κ 調査員が回収した回答の "Yes" の部分の全体に対する比率と解してよい。

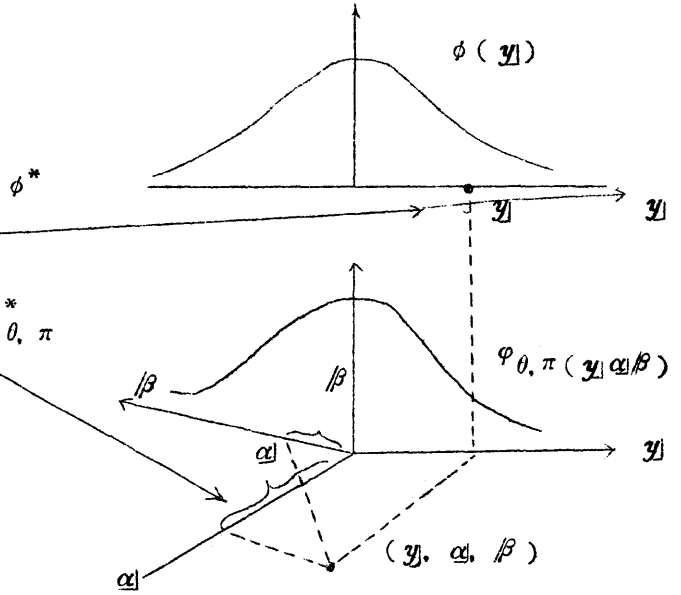
さて、一人の調査員ですべての調査対象を調査するわけに行かないし、またサンプリング誤差を小さくすることからも、当然 S には適当な層別がなされなくてはならない。同じく調査上、調査員の集合にも層別をしておく方が

第 1. 2 図

1) 〔調査対象の集合〕



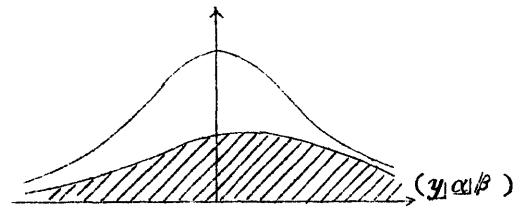
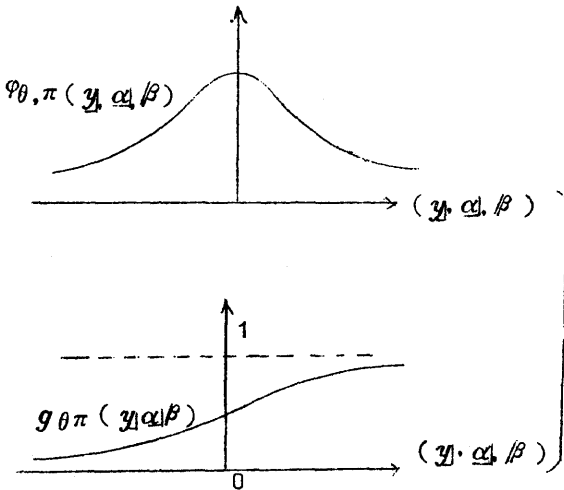
〔潜在構造〕



Γ に対し y
 Γ_θ の特性に対し α
 $T\pi$ の寄与に対し β

の尺度をもつ調査対象

2)



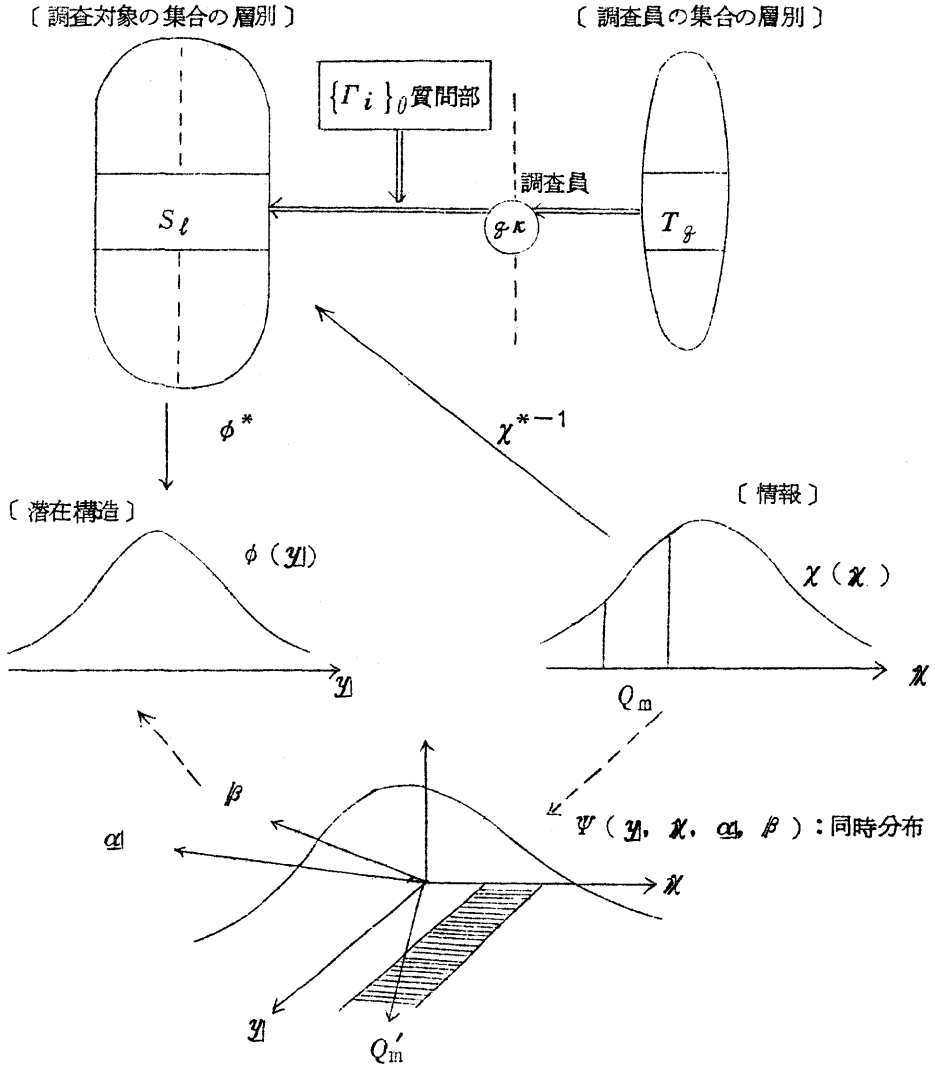
斜線の部分は

$$\int g_{\theta, \pi} \cdot \varphi_{\theta, \pi} \, d y \, d \alpha \, d \beta = P_{\theta, \pi}$$

を示す。

便利な場合がある。

第 1. 3 図



実際には $\phi(y_l)$ は未知であるために、 Y の層別にはこれと相関の程度の高い既知の分布をもつ情報——補助変量 X をもって代用する他はない。その密度関数を $\chi(k)$ とし、これによつて X の層別 (k の連続体を Q とする)。

(1.6) $\mathcal{G} = \{ Q_m \}$; $Q = \bigcup_m Q_m$; $F_{m \neq m'}, Q_m \cap Q_{m'} = \emptyset$
 がなされたとし、 $Q \times R \times U \times V$ において

$$(1.7) \quad Q'_m = Q_m \times R \times U \times V$$

とおく。同じく調査員のシステム T_π も $\mathcal{T} = \{T_\theta\} : T_\pi = \bigcup_{\theta} T_\theta : \forall_{\theta \neq \theta'}, T_\theta \cap T_{\theta'} = \emptyset$ と層別されたとする。さらに X と (Y, A, B) の連続な同時密度函数 $\psi_\theta(X, Y, \alpha, \beta)$ の存在を仮定すれば、

$$(1.8) \quad W'_m = \int_{Q'_m} \psi_{\theta, \pi}(X, Y, \alpha, \beta_{g\kappa}) dX, dY d\alpha d\beta_{g\kappa}$$

$$(1.9) \quad \varphi_{\theta, \pi}(Y, \alpha, \beta_{g\kappa} | Q_m) = \int_{Q_m} \frac{\psi_{\theta, \pi}(X, Y, \alpha, \beta_{g\kappa})}{w'_m} dX$$

は Q を層別した場合の各層における $\varphi_{\theta, \pi}$ の truncation である。

この場合、(1.5) に相当する関係式は、

$$(1.10) \quad \int g_{\theta, \pi}(Y, \alpha, \beta_{g\kappa}) \varphi_{\theta, \pi}(Y, \alpha, \beta_{g\kappa} | Q_m) dY d\alpha d\beta_{g\kappa} = P_{\theta, g\kappa, m}$$

となる。つまり \mathbb{X} の層別によつてひきおこされた S の層別を ($S'_m = \chi^{*-1}(Q_m)$ とおく)

$$(1.11) \quad \mathcal{S} = \{S'_m\}; S = \bigcup_m S'_m; m \neq m', S'_m \cap S'_{m'} = \emptyset$$

とすれば、 $P_{\theta, g\kappa, m}$ は Γ_θ 、質問群、 $g\kappa$ 調査員によつて層 S'_m を調査したときの positive response を得る確率を示す。全体に対する平均は

$$(1.12) \quad P_{\theta, \{g\kappa\}, m} = \sum w'_m P_{\theta, g\kappa, m}$$

となる。この場合、左辺の添字 $\{g\kappa\}$ は調査にあたつた調査員のシステムを表わす。

[1.2.2] 実際の分析について

[1.2.1] で述べた面接調査法のモデル構造は、結局システムの族 $\{\Gamma_\theta, T_\pi\}_{\theta \in \Theta, \pi \in \Pi}$ の各 θ, π について尺度導入の写像 $\varphi_{\theta, \pi}^*$ とそれに対応する分布 $\varphi_{\theta, \pi}$ および response function $g_{\theta, \pi}$ の数学的な形が与えられると決定する。 $\varphi_{\theta, \pi}^*$ を考えるときは、 Γ を支える固有な軸を見出すことがまず大きな問題となるであろう。つぎが尺度の導入法である。これらについては、従来の方法に因子分析法や尺度分析法などがあるが、われわれの立場に適用するには、新しい観点に立つて再検討することが必要となるであろう。

ただ、順序についてだけいうならば、完全な順序を導入し得ないときは、半順序集合もしくは類についての順序などを考慮するとよいであろう。この場合、精密な層別法が要求される。

さて、分析の中心は $\varphi_{\theta, \pi}$ および $g_{\theta, \pi}$ の数学的な形を推定することである。これについては、Lazarsfeld が一つの方法を与えている (§ 1 末に付せられた文献を参照のこと)。われわれの述語で要約すれば、潜在構造を適当な個数に層別するとき、その各層における $\varphi_{\theta, \pi}$, $g_{\theta, \pi}$ の truncation は一様分布とみなすわけである。実際の層別にあつては、(1.9) の $\varphi_{\theta, \pi}$ ($y, \alpha, \beta_{gk} | Q_m$) を一様分布とする他はないであろう。このとき層別サンプリングによつて $\varphi_{\theta, \pi}$ ($y, \alpha, \beta_{gk} | Q_m$) の形および Q'_m における $g_{\theta, \pi}$ の形が推定される。

実際に問題になるのは、このようないくつかの (近似的にも) 一様な分布をもつ層別を求めることと、それら層間の差を比較することであろう。したがつて Lazarsfeld の代数的方法が一般解をもつならば極めて有効な方法といわざるを得ない。また、これを拡張して各層内で truncation の函数形をとらせるということも考慮されるだろう。一般に調査における reliability の問題は、 $\varphi_{\theta, \pi}$ と $g_{\theta, \pi}$ が sequential な意味において同時に安定な分布であるといえるかどうかにかかつている。これらについては今後の研究の課題とする予定である。

さて、 $g_{\theta, \pi}$ の近似的な表現として、つぎのような函数形を考えることができる。ある $\theta = \theta_1$, $\pi = \pi_1$, について

$$(2.1) \quad g_{\theta_1, \pi_1}(y, \alpha, \beta_{gk}) = g_1(y) + g_2(\alpha) + g_3(\beta_{gk}) \\ + \epsilon_m^*(y, \alpha, \beta_{gk})$$

とおくことが出来るとする。もし、 y, α, β_{gk} の交互作用を考えるときは、さらに $\theta = \theta_2$, $\pi = \pi_2$ として

$$(2.1) \quad g_{\theta_2, \pi_2}(y, \alpha, \beta_{gk}) = g_1(y) + g_2(\alpha) + g_3(\beta_{gk}) \\ + h_1(y, \alpha) + h_2(y, \beta_{gk}) + h_3(\alpha, \beta_{gk}) \\ + f(y, \alpha, \beta_{gk}) + \epsilon_m^{**}(y, \alpha, \beta_{gk})$$

を考えればよい。このとき (1.10) は $\varphi_{\theta_1, \pi_1}(y, \alpha, \beta_{gk} | Q_m)$ の y , α , β_{gk} についての周辺分布をそれぞれ $\phi(y | Q_m)$, $\varphi_2(\alpha | Q_m)$,

$\varphi_3(\beta_{g\kappa} | Q_m)$ とおくとき

$$\begin{aligned} & \int_{R \times U \times V} g_{\theta_1, \pi_1} \varphi_{\theta_1, \pi_1}(\underline{y}, \underline{\alpha}, \beta_{g\kappa} | Q_m) d\underline{y} d\underline{\alpha} d\beta_{g\kappa} \\ &= \int_R g_1 \phi(\underline{y} | Q_m) d\underline{y} + \int_V g_2 \varphi_2(\underline{\alpha} | Q_m) d\underline{\alpha} \\ &+ \int_V g_3 \varphi_3(\beta_{g\kappa} | Q_m) d\beta_{g\kappa} + \int_{R \times U \times V} \in_m^* \varphi_{\theta_1, \pi_1} d\underline{y} d\underline{\alpha} d\beta_{g\kappa} \end{aligned}$$

となり，結局

(2.2) $P_{\theta_1, g\kappa, m} = P_m[\underline{y}] + P_{\theta_1, m}[\underline{\alpha}] + P_{g\kappa, m}[\beta_{g\kappa}] + \in_{\theta_1, g\kappa, m}$
ただし，

$$\in_{\theta_1, g\kappa, m} = \int_{R \times U \times V} \in_m^* \varphi_{\theta_1, \pi_1} d\underline{y} d\underline{\alpha} d\beta_{g\kappa}$$

を得る。ここで， $P_m[\underline{y}]$ ， $P_{\theta_1, m}[\underline{\alpha}]$ ， $P_{g\kappa, m}[\beta_{g\kappa}]$ はそれぞれ \underline{y} ， $\underline{\alpha}$ ， $\beta_{g\kappa}$ の函数であることを意味するのではなく，層 S_m' において positive response の確率のうち，システム $\{T_{\theta_1}, T_{\pi_1}\}$ の特性を含まないもの， T_{θ_1} の寄与，および $g\kappa$ 調査員の寄与を示す。同じく (2.1') からは

$$\begin{aligned} (2.2') \quad P_{\theta_2, g\kappa, m} &= P_m[\underline{y}] + P_{\theta_2, m}[\underline{\alpha}] + P_{g\kappa, m}[\beta_{g\kappa}] \\ &+ P_{\theta_2, m}[\underline{y}, \underline{\alpha}] + P_{g\kappa, m}[\underline{y}, \beta_{g\kappa}] + P_{\theta_2, g\kappa, m}[\underline{\alpha}, \beta_{g\kappa}] \\ &+ P_{\theta_2, g\kappa, m}[\underline{y}, \underline{\alpha}, \beta_{g\kappa}] + \in_{\theta_2, g\kappa, m} \end{aligned}$$

を得る。第4項～7項までは各構造の交互作用を示している。

なお，(2.1)，(2.1') は $g\theta, \pi$ の多項式近似を特別な場合として含む。
すなわち，

$$\begin{aligned} g_{\theta_3, \pi_3} &= a_0 + a_1 y_1 + a_2 y_2 + \cdots + a_{\nu+1} y_1^2 + \cdots \\ &+ b_1 \alpha_1 + b_2 \alpha_2 + \cdots + b_{\nu+1} \alpha_1^2 + \cdots \\ &+ c_1 \beta_{g\kappa} + c_2 \beta_{g\kappa}^2 + \cdots \end{aligned}$$

において，展開の第1の部分は $g_1(\underline{y})$ に，第2の部分は $g_2(\underline{\alpha})$ に，第3の部分は $g_3(\beta_{g\kappa})$ に含まれる。 y_i ， α_j ， $\beta_{g\kappa}$ の積の項をとるときは (2.1') の特別な場合と考えられる。つまり $g\theta, \pi$ の Taylor 展開を考えると，上述のような部分和をとれば，それらは (2.1') の特別な場合となるわけである。

さて，(2.1) を層全体について平均すれば

$$(2.3) \quad \bar{P}_{\theta_1, g} = \bar{P} + \bar{P}_{\theta_1} + \bar{P}_g + \bar{\epsilon}_{\theta_1, g}$$

で表わされる。 \bar{P} はSの全調査対象から得られる positive responseの確率で質問の特性および調査員の寄与を含まないものであり、 $\bar{P}_{\theta_1} + \bar{P}_g$ は \bar{P} に対する片寄り、 $\bar{\epsilon}_{\theta_1, g}$ はモデルに対する誤差項を表わすものと解してもよいであろう。

EF-XXIVにおいては、サンプル・サイズが交互作用を分析するだけの十分な大きさでないために、(2.2)したがって(2.3)を採用した。この場合、分析の目的は質問群、調査員のシステムとも二種類の差の二つの地区における比較であるために、 $g\theta, \pi, \varphi\theta, \pi$ の構造式を決定する方向に向わなかつた。具体的な分析方法はつぎのセクションに述べる。

[1.2.3] EF-XXIV 調査のモデル解析

(2.2)をこの場合に適用すると

$$(3.1) \quad P p_{g r j k} = \mu + \alpha' p r j + \beta' g r j k + \epsilon' p_{g r j k}$$

ただし、

$P p_{g r j k}$: p 調査票質問の $g\kappa$ 調査員による rj 層の positive response を得る確率

μ_{rj} : rj 層において $g\kappa$ 調査員によつて得られる, positive response のうちで調査票および調査員の寄与を含まない確率

$\alpha' p r j$: μ_{rj} に対する p 調査票の寄与

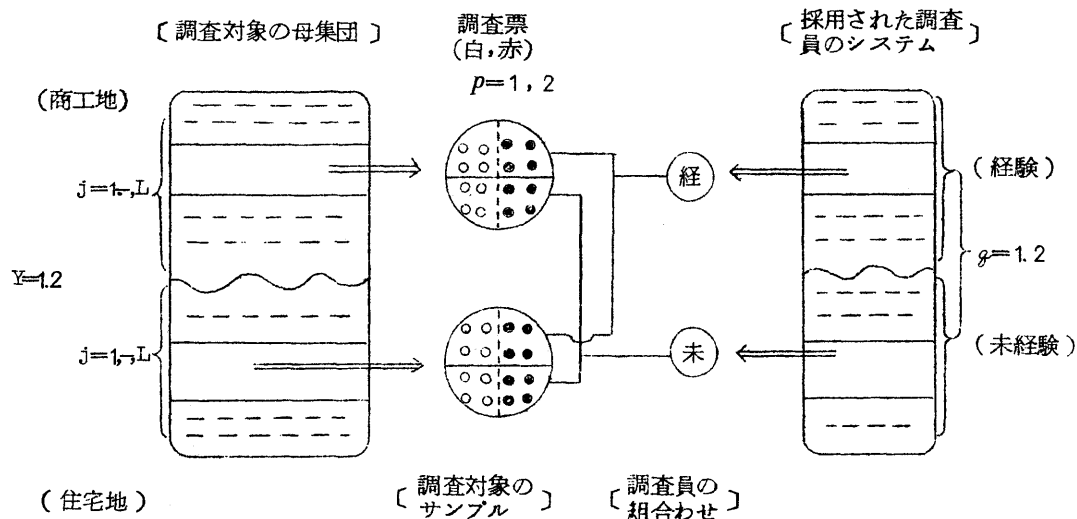
$\beta' g r j k$: μ_{rj} に対する $g\kappa$ 調査員の寄与

$\epsilon' p_{g r j k}$: 誤差項 ($p, g, r = 1, 2$)

となる。記号については[1.2.1], [1.2.2]では α, β は潜在構造についての量を表わしたが、簡便のため同じ記号でこゝではその回答に寄与する確率を示しているので注意されたい。

第1.4図に見られるように、調査対象の集合一同一視して母集団と呼ぶことにしよう。を、まず大きく商工地区と住宅地区との二層に大別し、その各々を同数個の小層に細別する。一方、採用された調査員のシステムを、「経験ある調査員」の群と「未経験の調査員」の群の二つの層に大別する。つま

第 1.4 図



り調査対象の層 S_{rj} を調査可能な調査員の群が $T_{g,j}$ となるわけである。その上、調査対象の細群には経験ある調査員と未経験の調査員とが独立に調査をする interpenetrate な組織をとる。〔 1.2.1 〕, 〔 1.2.2 〕でみられた $\{ \Gamma_i \}_\theta$ としては

Γ_p : 白調査票

$\Gamma_{p'}$: 赤調査票

というズブリットした二種類の調査票を、調査員のそれぞれにもたせることになる。

(3.1) を j, k について平均し、適当な変換によつて

$$(3.2) \quad P_{pgr} = \mu_r + \delta_r + \alpha_{pr} + \beta_{gr} + \epsilon_{pgr}$$

ただし

$$\begin{cases} \alpha_{1r} + \alpha_{2r} = 0 \\ \beta_{1r} + \beta_{2r} = 0 \end{cases} \quad p, g, r = 1, 2$$

と表わすことが出来る。この場合

$$\alpha_{pr} = \frac{[\text{白調査票の寄与}] - [\text{赤調査票の寄与}]}{2}$$

$$\beta_{gr} = \frac{[\text{経験ある調査員の寄与}] - [\text{未経験の調査員の寄与}]}{2}$$

$r = [\text{商工地区}], [\text{住宅地区}]$

である。最小二乗法による推定値は

$$(3.3) \quad \begin{cases} \hat{\alpha}_{pr} = \bar{P}_{p \cdot r} - \bar{P} \cdot \cdot r \\ \hat{\beta}_{gr} = \bar{P}_{g \cdot r} - \bar{P} \cdot \cdot r \end{cases} \quad p, g, r = 1, 2$$

で与えられる。つまり、このモデルとしては両者間の差異を比較することであつて絶対量は表わされない。

(3.1)に相当するサンプルからの関係式は

$$(3.4) \quad \hat{P}_{pgrjk} = m_{rj} + a'_{prj} + b'_{grjk} + e'_{pgrjk}$$

で表わされる。ここで、 \hat{P}_{pgrjk} は g 調査員によつて実際に得られた positive response の割合を示す。これを j, k について平均すれば、(3.2)

に相当する関係式を得る。

$$(3.5) \quad \hat{P}_{pgr} = m_r + d_r + a_{pr} + b_{gr} + e_{pgr}$$

たゞし

$$\begin{aligned} a_{1r} + a_{2r} &= 0 \\ b_{1r} + b_{2r} &= 0 \end{aligned} \quad p, g, r = 1, 2$$

この場合 e_{pgr} は勿論、 m_r, d_r, a_{pr}, b_{gr} は確率変数となる。

α_{pr}, β_{gr} の推定値は

$$(3.6) \quad \begin{cases} \hat{\alpha}_{pr} = \bar{\hat{P}}_{p \cdot r} - \bar{\hat{P}} \cdot \cdot r \\ \hat{\beta}_{gr} = \bar{\hat{P}}_{g \cdot r} - \bar{\hat{P}} \cdot \cdot r \end{cases} \quad p, g, r = 1, 2$$

で与えられる。分散は weight がつかない場合は、次式で与えられる。

$$(3.7) \quad V(\hat{\alpha}_{pr}) = \frac{1}{16} [V(\hat{P}_{11r}) + V(\hat{P}_{21r}) + V(\hat{P}_{12r}) + V(\hat{P}_{22r}) \\ + 2 \{ \text{Cov}(\hat{P}_{11r}, \hat{P}_{12r}) + \text{Cov}(\hat{P}_{21r}, \hat{P}_{22r}) \\ - \text{Cov}(\hat{P}_{11r}, \hat{P}_{21r}) - \text{Cov}(\hat{P}_{12r}, \hat{P}_{22r}) \}]$$

$$(3.8) \quad V(\hat{\beta}_{gr}) = \frac{1}{16} [V(\hat{P}_{11r}) + V(\hat{P}_{21r}) + V(\hat{P}_{12r}) + V(\hat{P}_{22r}) \\ + 2 \{ \text{Cov}(\hat{P}_{11r}, \hat{P}_{21r}) + \text{Cov}(\hat{P}_{12r}, \hat{P}_{22r}) \\ - \text{Cov}(\hat{P}_{11r}, \hat{P}_{12r}) - \text{Cov}(\hat{P}_{21r}, \hat{P}_{22r}) \}]$$

[1.2.4] 質問が U 個の選択肢をもつ場合、各 bias の χ^2 - 検定

選択肢の $\%$ を表わす記号として、() を閉じて文字の右肩に付すことに

しょう。

例えば

$$\hat{P}_{pgr}^{(s)}, \hat{a}_{pr}^{(s)}, \hat{b}_{gr}^{(s)} \dots \dots (s=1, 2, \dots, u)$$

どちらも同様であるから、二つの質問票の差異 α_{pr} について、 χ^2 - 検定の方法を述べる。

いま、ある質問について、回答の度数表が第 1.3 表のように与えられたとしよう。このとき、

$$(4.1) \quad \begin{cases} \bar{\hat{P}}_{p \cdot r}^{(s)} = \nu_{sp} / n_p \\ w_p = n_p / n \end{cases}$$

とおく。さて、仮説

$$H_{0\alpha} : \alpha_{pr}^{(s)} = 0$$

は (3.3) により誤差項を無視すれば

$$H'_{0\alpha} : \bar{P}_{1 \cdot r}^{(s)} = \bar{P}_{2 \cdot r}^{(s)}$$

と同値である。したがって、この場合

$P_{1 \cdot r}^{(s)} (= P_{2 \cdot r}^{(s)})$ の推定値として

$$(4.2) \quad P_r^{*(s)} = \sum_p w_p \hat{P}_{p \cdot r}^{(s)} = \bar{\hat{P}}_{\cdot \cdot r}^{(s)}$$

をとるとき、

$$(4.3) \quad \chi^2 = n \sum_{s,p} \frac{w_p}{\sum_p w_p \hat{P}_{p \cdot r}^{(s)}} (\bar{\hat{P}}_{p \cdot r}^{(s)} - \sum_p w_p \bar{\hat{P}}_{p \cdot r}^{(s)})^2$$

は近似的に自由度 $u-1$ の χ^2 - 分布にしたがう。これによつて $H_{0\alpha}$ の棄却域が定められる。

なお、実際の計算にあたつては、

$$w_s = \frac{\nu_{s1}}{\nu_s}, \quad w_1 = \frac{n_1}{n}$$

と置いて

$$(4.4) \quad \chi^2 = \frac{1}{w_1(1-w_1)} \left(\sum_s^u \nu_{s1} w_s - n_1 w_1 \right)$$

を使用するのが便利である。

第 1.3 表

調査票 選択肢	白	赤	計
1	ν_{11}	ν_{12}	ν_1
2	ν_{21}	ν_{22}	ν_2
\vdots	\vdots	\vdots	\vdots
\vdots	\vdots	\vdots	\vdots
\vdots	\vdots	\vdots	\vdots
u	ν_{u1}	ν_{u2}	ν_u
計	n_1	n_2	n

1.3. 分析および集計結果の概要

EF-X XIV 調査においては、§5：5.1 質問の一覧表に見られるように、白調査票と赤調査票とにスプリットした質問は、全体で12問である。そのうち、〔1.2.4〕にしたがう χ^2 -検定を実際に計算したものは8問であつて、他の質問は一見して有意差があるとは思われなかつた。その模様は第1.4表のとおりである。

第 1.4 表

問 号	§ 4 表 号	§ 5 表 号	項 目	白調査票と 赤調査票と の 相 違	有 意 差			
					調 査 票		調 査 員	
					商工地区	住宅地区	商工地区	住宅地区
23,123	2	17	オリンピック成績	質問文の相違	なし	なし	なし	なし
7,107	3	19,20	国連の活動状況	〃	なし*	なし	あり	なし
28,128	なし	22	外国の立派な政治家	リストの文の相違				
22,122	1	16	オリンピックの評価点数	リストの有無	あり	なし*	あり	なし
8,108	なし	21	中共の国連加盟	〃				
15,119	4	23	ベトナム問題の原因	自由回答法， 選択法	あり	あり	あり	なし
9,109	5	24a	国連：責任分担	質問文の順序	なし	なし	なし	なし
〃	〃	24b	国連：利用	〃	なし	なし	なし	なし
4,104	6	25	意見反映：政府	〃	なし	なし	あり	なし
〃	〃	〃	意見反映：国会	〃	なし	なし	あり	なし
5,105	7	26a	関心：憲法	〃	なし*	なし	なし	なし
〃	〃	26c	関心：物価	〃	なし	あり	なし	なし
〃	なし	26その他	関心：その他	〃				
13,113	8	27a	世界への影響：労働党	〃	あり	なし	なし*	なし
〃	なし	27その他	世界への影響：その他	〃				
21,121	〃	28a	世界平和：よくない国	〃				
〃	〃	28b	世界平和：熱心な国	〃				
14,118	〃	29	ベトナム問題で悪い国	リストの項目の順序				

〔注：（*）印のものは有意差はなくとも、 χ^2 の値が大きくて要注意のもの〕

この分析の結果、傾向として推定されることを列挙すれば、つぎのようである。

- 1) 「質問文の相違」では問 23, 123 にみられるように、「オリンピック」を「メキシコのオリンピック」と変えても回答に変動は起らなかった。「リストの文」では、問 28, 128 で赤調査票のリストに外国首脳の説明を入れたが、これも大体において影響がなかった。たゞ「毛沢東」については、影響のふしを感じられる程度である。
- 2) 問 7, 107 の「国連の活動状況」は有意差の傾向がみられるが、これには選択肢の対応のさせ方にも問題があつて、判別は決定しがたい。
- 3) 「リストの有無」では問 22, 122 の「オリンピックの評価点数」が有意差の程度がやゝ強い。しかし、問 8, 108 「中共の国連加盟」では有意差は認められない。
- 4) 自由回答法と選択肢法とを対比させた問 15, 119 「ベトナム問題の原因」では明瞭に有意差が出て来たが、これは選択肢法への一つの問題点を提起していると云えるであろう。
- 5) 「質問文の順序」については一応有意差はないといつてよいであろう。しかし問 5, 105: 「どの問題に関心をもつか」の a) 「憲法」, 1) 「物価」に見られるように、順序の差が大きいものは、 χ^2 の値が大きく表われている。問 13, 113 「世界への影響」の a) 「労働党」においても、その傾向がみられる。したがつて前後の順序を変えるだけの質問などでは、バイアスはいかゝらないが、同じ型式の質問を数多く繰返す場合には、安心することが出来ない。
- 6) 全体の傾向としていえることは、地区別に考えるとき調査票の差異および調査員のそれに共通して、商工地区の方が住宅地区に比較して有意差の表われ方、ないしは χ^2 の大きな数値の表われ方が強いということである。また D・K の個数は全体として他の選択枝に比べて差異が大きい。

文 献

- [1] 青山博次郎, 林知己夫, 西平重喜: 質問紙法における諸問題一質問形式についての考察—統計数理研究所輯報 9 号, 10 号.
- [2] 青山博次郎: 面接調査法における偏りの統計的研究 I, 統計数理研究所集報, 第 6 巻, 第 2 号, 1958.
- [3] 林知己夫: 回答誤差等を考慮に入れた標本調査計画, 統計数理研究所集報, 第 5 巻, 第 1 号, 1957.
- [4] 林知己夫: 態度数理化の一方法 II, 統計数理研究所集報, 第 6 巻, 第 1 号, 1958.
- [5] 西平重喜: 面接調査法の諸問題, その 1, 2, 3, 4, 5, 統計数理研究所集報, 第 3 巻, 第 1 号, 1955; 第 4 巻, 第 2 号, 1956; 第 5 巻, 第 2 号, 1958; 第 6 巻, 第 1 号, 1959; 第 12 巻, 第 1 号, 1964.
- [6] 西平重喜: パネル調査の問題点, 調査と技術, 1959 年 6 月号, 電通.
- [7] 多賀保志: 郵便調査法について, 統計数理研究所集報, 第 3 巻, 第 1 号, 1955.
- [8] 鈴木達三: 面接調査における回答誤差, 統計数理研究所集報, 第 12 巻, 第 1 号, 1964.
- [9] Anderson, T.W.: On estimation of parameters in Latent structure analysis, Psychometrika, 19, 1954, P.P. 1-10.
- [10] Cochran, W.G.: Sampling Techniques, P.P. 292-317, New York, John Wiley and Sons, INC, 1953.
- [11] Cramer, H.: Mathematical Methods of Statistics, Princeton Univ. Press, 1946.
- [12] Hansen, M.H.; Hurwitz, W.N.; Madow, W.G.: Sample Survey Methods and Theory, Vol. II, P.P. 280-325, New York, John Wiley and Sons, Inc. 1953.
- [13] Heyman, H.H. and others: Interviewing in Social Res-

earch, 1954.

- [14] Lazarsfeld, P.F.: The Logical and Mathematical Foundation of Latent Structure Analysis, in Chap.10, Measurement and Prediction, Princeton, New Jersey Princeton Univ. Press, 1950.
- [15] Lazarsfeld, P.F.: the Algebra of Dichotomous Systems, Studies in Item Analysis and Prediction, P.P. 111~157, Stanford Univ. Press, 1961.
- [16] Lazarsfeld, P.F.: Latent structure analysis; in Psychology: A Study of a Science. S. Koch, ed., Vol. III. McGraw - Hill Book Co., 1958.
- [17] 林知己夫: ベトナム問題をどうみるか, 自由1965年10月号, 自由社.
- [18] 鈴木達三: 調査・日本の防衛と国連, 自由1965年12月号, 自由社.

§ 2 EF-XXIVにおける層別表

2.1 地域別による東京都23区の層別

- 1) この層別およびこれによるサンプリングは、EF-XXVにおいても同時に適用した。
- 2) 「分類の基準」における数字はすべて%を示す。

2.2 調査員割当別による層別

- 1) 「層別」は3.1表における第1次の層番号および第2次の層番号をともに示す。
- 2) 「割当コード」は次表の関係にある。

調査員 地区	経験のある 調査員	未経験の 調査員
商工地区	1	2
住宅地区	3	4

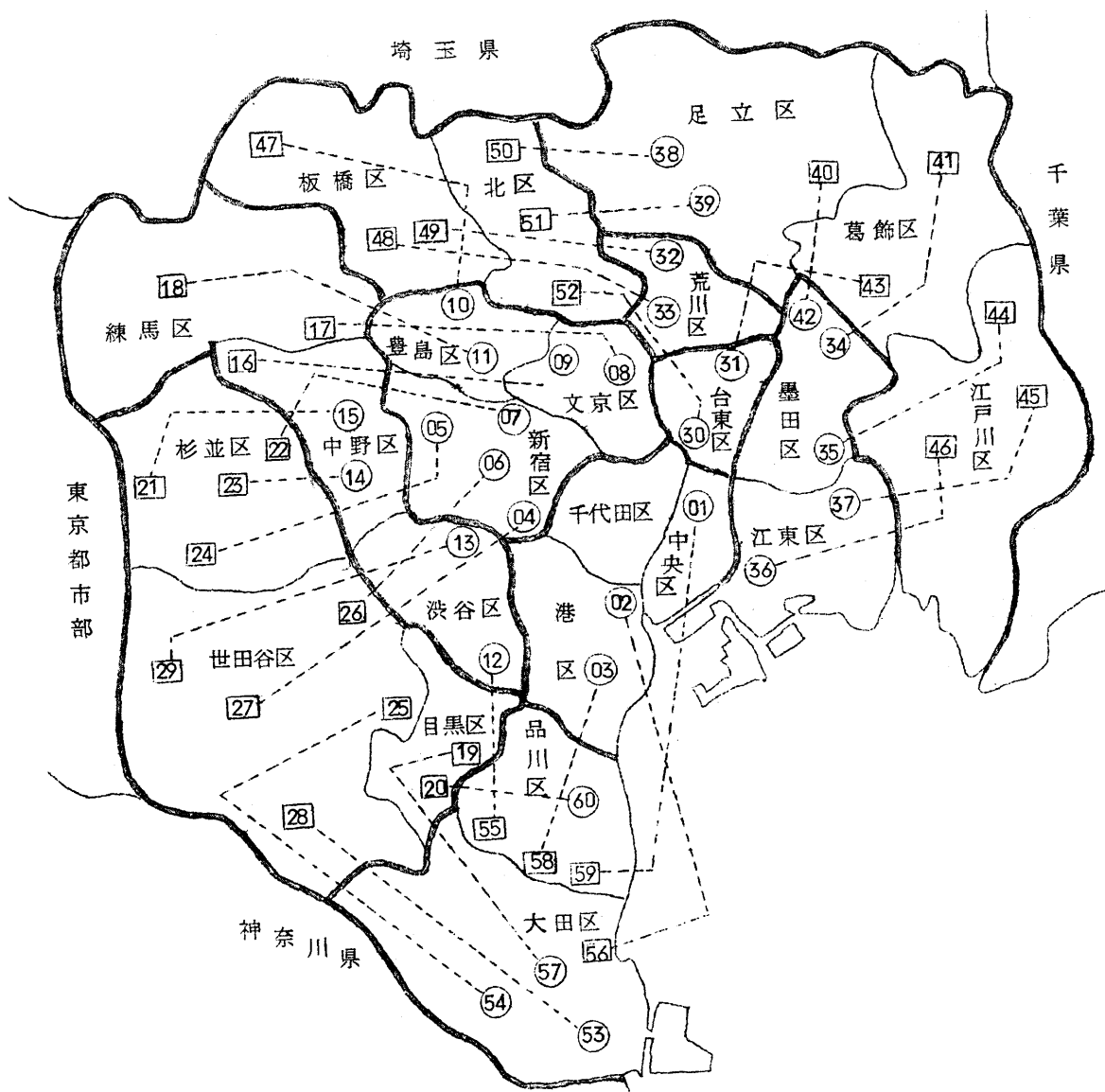
- 3) 「調査員の類別」は「経」は調査経験のある調査員、「未」は調査経験のない調査員であることを示し、それぞれ該当する項に○印を付した。
- 4) 「調査員の報告による地区別のチェック」は調査後、調査員の報告(アンケート)によつて商工、住宅の地区別の妥当性を吟味したもので、記号は次のとおりである。

	商 工 地 区	住 宅 地 区
○印	商工地区の要素が大きいと回答したもの	住宅地区の要素が大きいと回答したもの
△印	判別が決定しがたいもの	判別が決定しがたいもの
×印	住宅地区の要素が大きいと回答したもの	商工地区の要素が大きいと回答したもの

2.3 層 別 地 図

- 1) 太字の境界線は3.1表における第1次の層別を示す。
- 2) 図中の数字は調査地点の番号を示し、○印、□印はそれぞれ3.2表における第1調査地点(商工地区)および第2調査地点(住宅地区)に位置することを意味する。

層別地図



2.1 地域別による東京都23区の層別

				6 0 層	
Ⅵ	区	有 権 者 数		層 Ⅵ	有 権 者 数
Ⅰ	中 央	101,348	347,874	02	388,116
	千 代 田	74,573		01	
	港	171,953		03	
				04	
Ⅱ	新 宿	279,880	701,673	05	673,819
	文 京	176,636		06	
				07	
				08	
				09	
	豊 島	245,157		10	
Ⅲ	澁 谷	187,114	695,804	11	683,416
	中 野	246,262		12	
				13	
				14	
				15	
	練 馬	262,428		16	
				17	
Ⅳ	目 黒	204,544	1,044,788	18	1,058,632
	杉 並	360,034		19	
				20	
				21	
				22	
				23	
				24	
	世 田 谷	480,210		25	
				26	
				27	
				28	
				29	
Ⅴ	台 東	194,805	194,805	30	194,805
			31		

分 類 の 基 準									
職 業 分 類				産 業 分 類				移 出 入 入 口	
専門技術 管 理 職	事 務 運 輸	販 売 サービス	生産工・ 単純労働	運輸・通信 金融・公務	卸売・小売 サービス	建設業 製造業	農 漁 業 水 産	止まる人口	増 減
11.9 ≤ ≤17.6	13.9 ≤ ≤19.9	26.2 ≤ ≤42.9	24.8 ≤ ≤36.0	11.5 ≤ ≤21.0	44.0 ≤ ≤60.0	28.0 ≤ ≤36.1	—	0.82 ≤ ≤0.88	+0.49 ≤ ≤+2.51
16.9 ≤ ≤18.5	19.2 ≤ ≤21.5	24.4 ≤ ≤26.2	33.1 ≤ ≤38.0	16.5 ≤ ≤19.3	41.0 ≤ ≤44.0	36.2 ≤ ≤41.5	—	0.76 ≤ ≤0.78	-0.04 ≤ ≤+0.13
18.2 ≤ ≤21.1	21.4 ≤ ≤26.6	23.4 ≤ ≤24.4	28.6 ≤ ≤31.1	21.6 ≤ ≤27.0	34.4 ≤ ≤42.4	31.4 ≤ ≤35.2	≤11.8	0.70 ≤ ≤0.75	-0.22 ≤ ≤+0.01
21.1 ≤ ≤24.9	25.6 ≤ ≤28.1	19.8 ≤ ≤21.9	27.0 ≤ ≤33.4	20.6 ≤ ≤23.3	36.7 ≤ ≤41.0	32.8 ≤ ≤41.5	≤2.7	0.71 ≤ ≤0.73	-0.26 ≤ ≤-0.14
11.6	9.0	36.2	43.6	8.7	48.7	42.3	—	0.88	+0.16

				6 0 層	
層	区	有 権 者 数		層 層	有権者数
Ⅵ	墨 田	208,676	615,402	35	586,722
	荒 川	176,703		34	
				32	
	江 東	230,023		33	
				36	
				37	
Ⅶ	足 立	303,528	826,153	38	876,982
	葛 飾	276,260		39	
				40	
				41	
				42	
	江 戸 川	246,365		43	
				44	
				45	
46					
Ⅷ	板 橋	304,474	606,358	47	584,479
	北	301,884		48	
				49	
				50	
				51	
				52	
Ⅸ	大 田	497,743	787,628	53	773,786
	品 川	289,885		54	
				55	
				56	
				57	
				58	
				59	
				60	
				合 計	

分類の基準									
職業分類				産業分類				移出入人口	
専門技術 管理職	事務 運輸	販売 サービス	生産工・ 単純労働	運輸・通信 金融・公務	卸売・小売 サービス	建設業 製造業	農漁業 水産	止まる人口	増減
7.8 ≤ ≤ 9.5	9.6 ≤ ≤ 14.7	20.2 ≤ ≤ 21.9	56.6 ≤ ≤ 59.0	8.4 ≤ ≤ 16.1	28.2 ≤ ≤ 30.3	55.0 ≤ ≤ 62.0	—	0.86 ≤ ≤ 0.89	-0.02 ≤ ≤ +0.08
7.3 ≤ ≤ 9.8	13.3 ≤ ≤ 15.2	18.3 ≤ ≤ 19.9	49.5 ≤ ≤ 55.0	15.5 ≤ ≤ 16.6	26.2 ≤ ≤ 27.0	50.9 ≤ ≤ 55.9	—	0.81 ≤ ≤ 0.85	-0.13 ≤ ≤ -0.09
12.0 ≤ ≤ 12.6	19.5 ≤ ≤ 21.2	19.4 ≤ ≤ 21.5	46.2 ≤ ≤ 46.7	17.5 ≤ ≤ 19.8	31.7 ≤ ≤ 33.4	46.5 ≤ ≤ 48.6	≤ 2.0	0.77 ≤ ≤ 0.81	-0.12 ≤ ≤ -0.09
14.2 ≤ ≤ 15.8	19.1 ≤ ≤ 19.9	19.2 ≤ ≤ 21.6	43.4 ≤ ≤ 44.0	15.8 ≤ ≤ 17.6	32.0 ≤ ≤ 34.3	47.5 ≤ ≤ 49.5	≤ 2.3	0.79	-0.12 ≤ ≤ -0.02

2. 2 調査員割当別による層別

群	調査員	第 1 調査地区 (商工地区)							
	№	地点 №	割 当 コード	層№	区	投票区	町 名	地点№	割 当 コード
1	# 1	01	1	I,1	中 央	18	浜 町 2 丁 目	59	3
	# 2	"	2	"	"	"	"	"	4
	# 3	02	1	I,2	港	4	新 橋 6 丁 目	56	3
	# 4	"	2	"	"	"	"	"	4
	# 5	03	1	I,3	港	6	芝 浦 1 丁 目	58	3
	# 6	"	2	"	"	"	"	"	4
	# 7	04	1	I,4	新 宿	4	大 京 町	27	3
	# 8	"	2	"	"	"	"	"	4
2	# 9	05	1	II,1	新 宿	19	西 大 久 保	24	3
	# 10	"	2	"	"	"	"	"	4
	# 11	06	1	II,2	新 宿	16	東 大 久 保	26	3
	# 12	"	2	"	"	"	"	"	4
	# 13	07	1	II,3	新 宿	27	戸 塚 町	22	3
	# 14	"	2	"	"	"	"	"	4
3	# 15	08	1	II,4	文 京	16	千 駄 木	17	3
	# 16	"	2	"	"	"	田 駒 込 林 町	"	4
	# 17	09	1	II,5	文 京	11	宮 下 町	16	3
	# 18	"	2	"	"	"	"	"	4
	# 19	11	1	II,7	豊 島	34	高 松 町	18	3
	# 20	"	2	"	"	"	"	"	4
4	# 21	12	2	III,1	澁 谷	5	恵 比 寿	55	4
	# 22	"	1	"	"	"	"	"	3
	# 23	13	1	III,2	澁 谷	12	千 駄 ヶ 谷	29	3
	# 24	"	2	"	"	"	"	"	4
	# 25	14	1	III,3	中 野	12	本 町 通	23	3
	# 26	"	2	"	"	"	"	"	4
	# 27	15	1	III,4	中 野	19	新 井 町	21	3
	# 28	"	2	"	"	"	"	"	4
5	# 29	53	1	IX,1	大 田	42	羽 田	28	3
	# 30	"	2	"	"	"	"	"	4

第2調査地区（住宅地区）				調査員 の類別		調査員の報告 による地区の 特徴		追 求 調 査	郵便 調 査
層/区	区	投票区	町 名	経	未	商 工 地 区	住 宅 地 区		
K 7	品 川	21	西大井 3丁目		○	○	○	}	郵便 調 査 地 点
"	"	"	"		○	不明	不明		
K 4	大 田	7	大 森 北	○		△	△		
"	"	"	"	○		○	○		
K 6	品 川	29	東中延 3丁目	○		○	○		
"	"	"	"		○	○	○		
N 9	世田谷	30	世田谷 5丁目	○		○	△		
"	"	"	"		○	×	×		
N 6	杉 並	45	上高井戸町	○		△	○	}	地点 24
"	"	"	"	○		○	○		
N 8	世田谷	10	代沢町 2丁目	○		△	○		
"	"	"	"		○	△	○	}	郵便 調 査 地 点
N 4	杉 並	14	高円寺 南	○		△	○		
"	"	"	"		○	△	△		
III 6	練 馬	4	豊 玉 北	○		×	○	}	郵便 調 査 地 点
"	"	"	"	○		△	△		
III 5	中 野	33	鷺 宮		○	△	○		
"	"	"	"		○	×	×		
III 7	練 馬	34	下石神井	○		×	△		
"	"	"	"		○	△	○		
K 3	品 川	27	荏原町 7丁目		○	○	○		
"	"	"	"	○		○	○	}	郵便 調 査 地 点
N 11	世田谷	59	祖師谷 2丁目		○	○	○		
"	"	"	"		○	○	○		
N 5	杉 並	29	西 田 町		○	△	不明		
"	"	"	"		○	○	○		
N 3	杉 並	41	松 庵 南		○	△	○		
"	"	"	"		○	○	○	}	郵便 調 査 地 点
N 10	世田谷	46	玉川等々力2丁目	○		△	○		
"	"	"	"		○	○	○		

群	調査員 %	第 1 調査地区 (店工地区)							
		地点%	割 当 コード	層%	区	投票区	町 名	地点%	割 当 コード
5	# 31	54	1	K,2	大 田	55	矢 口 町	25	3
	# 32	"	2	"	"	"	"	"	4
	# 33	57	1	K,5	大 田	37	蒲 田	19	3
	# 34	"	2	"	"	"	"	"	4
	# 35	60	2	K,8	品 川	12	大井町 3 丁目	20	4
	# 36	"	1	"	"	"	"	"	3
6	# 37	35	1	VI,4	江 東	18	亀戸町 5 丁目	44	3
	# 38	"	2	"	"	"	"	"	4
	# 39	36	1	VI,5	江 東	11	古石場 4 丁目	46	3
	# 40	"	2	"	"	"	"	"	4
	# 41	37	1	VI,6	江 東	21	大島町 3 丁目	45	3
	# 42	"	2	"	"	"	"	"	4
7	# 43	31	1	V,2	台 東	12	金 杉 下 町	43	3
	# 44	"	2	"	"	"	"	"	4
	# 45	34	1	VI,3	墨 田	23	吾嬬町西 5 丁目 6 丁目	41	3
	# 46	"	2	"	"	"	"	"	4
	# 47	42	2	VI,5	墨 田	30	隅田町 4 丁目	40	4
	# 48	"	1	"	"	"	"	"	3
8	# 49	30	1	V,1	台 東	2	台 東、上 野	52	3
	# 50	"	2	"	"	"	"	"	4
	# 51	33	1	VI,2	荒 川	26	日 暮 里 町 7	48	3
	# 52	"	2	"	"	"	"	"	4
	# 53	10	1	II,6	豊 島	13	池 袋	47	3
	# 54	"	2	"	"	"	"	"	4
9	# 55	32	2	VI,1	荒 川	25	西尾久 8 丁目	49	4
	# 56	"	1	"	"	"	"	"	3
	# 57	38	1	VII,1	足 立	37	西 新 井 町	50	3
	# 58	"	2	"	"	"	"	"	4
	# 59	39	1	VI,2	足 立	32	本 木 町	51	3
	# 60	"	2	"	"	"	"	"	4

第 2 調査地区 (住宅地区)				調査員 の類別		調査員の報告 の地区別 のチェック		追求 調査	郵便 調査
層/区	区	投票区	町 名	経	未	商 工 地 区	住 宅 地 区		
N,7 "	世田谷 "	17	下馬町 3 丁目	○	○	○ ×	○ ○	地点 44	
N,1 "	目 黒 "	11	下目黒 4 丁目	○ ○		○ ×	○ ○		
N,2 "	目 黒 "	22	東 町	○	○	○ ○	○ ○		
VI,7 "	江戸川 "	30	小 岩 町		○ ○	不明 △	不明 ○		
VI,9 "	江戸川 "	11	東 小 松 川		○ ○	○ ○	× ×		
VI,8 "	江戸川 "	24	鹿 骨 町	○	○	○ ○	○ ○		
VI,6 "	葛 飾 "	3	本 田 梅 田 町		○ ○	不明 ○	不明 ○		
VI,4 "	葛 飾 "	40	新 宿 町		○ ○	△ ○	△ ○		
VI,3 "	足 立 "	18	五 兵 衛 町	○	○	△ △	○ ○		
VI,6 "	北 "	6	西ヶ原 3 丁目	○	○	○ ○	△ △	地点 33	↑ 郵便調査地点 ↓
VI,2 "	板 橋 "	35	錦 桜 川 3 田 上 板 橋 6	○	○	不明 ○	不明 ○		
VI,1 "	板 橋 "	41	下 赤 塚 町	○	○	○ △	○ ○		
VI,3 "	板 橋 "	8	栄 町	○	○	不明 不明	不明 不明		
VI,4 "	北 "	31	岩 淵 町 1 丁目	○	○	× ×	△ △		
VI,5 "	北 "	16	上 十 条 1 丁目	○	○	○ ○	○ ×		

§ 3 時 事 日 誌

1964. 12. 1 ~ 1965. 5. 20

1965. 5. 21 ~ 1965. 11. 11

12月4日~12月10日 EF-XXIII

- 12月 1日 第15回自民党大会で佐藤首相、新総裁に選出される。
- 2日 北ベトナム「米軍機北ベトナム爆撃」非難声明発表。
- 8日 社会党第24定期大会で河上委員長五選する。
- 9日 椎名外相、国連総会より帰国して「中共加盟は流動的」と発表。
- 15日 ウイルソン英首相、下院で大西洋核戦力（ANF）構想発表。
- 29日 韓国政府、南ベトナム政府援助のため海外派兵の決定。
- 1月 2日 国連事務局「インドネシア国連脱退」を発表。
- 3日 中国第3期人民代表大会で国家主席に劉少奇再選し、國務院總理（首相）には周恩来を指名。
- 11日 南ベトナムでクーデター起る。
- “ 中央教育審議会は「期待される人間像」の中間発表をした。
- 27日 日本オリンピック委は1972年オリンピック冬季大会開催地に札幌市の立候補を決定した。
- 30日 チャーチル元英首相の国葬。
- 2月 2日 米原潜シードラゴン号佐世保港入港。
- 3日 ラオスでクーデター起る。
- 10日 国会で昭和38年度統合防衛図上研究（三矢研究）を激しく追及。
- 20日 「日韓基本関係条約」案の仮調印行われる。
- 26日 医療費問題、政府側と支払い側との会談で紛糾が收拾した。
- 27日 大蔵省は「所得税のかからぬ献立」を発表したが、主婦連から反撃された。
- 3月 1日 世界共産党協議会議がモスクワで開かれ、米軍の南ベトナム撤退要求の声明を

発表。

北ベトナム爆撃はベトコンの報復のわくを越えたものとして規模拡大する。

- 7日 西独政府はイスラエルと国交樹立の主旨発表。アラブ諸国はアラブ連盟緊急理
- 10日 事会を開催し、ボンからのアラブ外交代表の引揚げを勧告した。
- 10日 五輪記録映画をみた河野国務相は「近く公開される“東京オリンピック”は芸術性を強調しすぎているから別に記録映画をつくる。」と語り、波紋が広がる。
- 15日 東京地検特捜部は都議会議長選挙にからみ都議員3人贈収賄容疑で逮捕、小山議長宅の家宅搜索をした。
- 18日 皇太子ご夫妻を迎えて新南極観測船「ふじ」の進水式が行われた。
- ” ソ連、宇宙衛星船から人類初の宇宙遊泳に成功。
- 22日 米軍のベトナム戦線での「ガス弾」使用を南ベトナム解放通信が報じ、米国当局はその一部を認めた。
- 24日 日韓漁業交渉が妥結した。
- 29日 都議会は公共料金値上げをめぐり与野党が乱闘した。

- 4月 7日 ジョンソン米大統領はベトナム問題で無条件討議に応ずる用意がある旨発表した。
- 12日 ホー・チミン北ベトナム大統領はベトナム紛争解決の4条件を主張した。
- 13日～17日 日韓会談反対の韓国学生デモは警官隊と大乱闘し、死亡事件を起して重大局面に達する。
- 15日 自民党I.L.O.87号条約承認案を衆院特別I.L.O.委で強行採決。
- 16日 小山都議会議長は議長選挙をめぐる贈賄容疑で逮捕され、都議自民党は議長辞任を勧告。
- 17日 インドネシアのジャカルタで第1回アジア・アフリカ会議10周年記念式典が開かれた。
- 24日 都議会の公明党は都議会解散のリコール運動を決定する。都議会は解散の方針を決定した。
- 28日 私鉄労使の賃上げの紛争から全国185社の24時間全面スト決行。

- 5月 6日 社会党臨時大会で佐々木更三氏新委員長に選出。

- 5月13日 農地報償法案に衆院内閣委で一部修正のうえ可決。
- 14日 総辞職を予定していた都議会は期限まで辞表がそろわなかった。「都政刷新市民委員会」「都政刷新連盟」が発足、都民の声を盛上げることにした。
- 15日 中国は二度目の核実験に成功。
- 16日 ファイテンング原田は世界バンタム級選手権を獲得。
- 20日 都議会は地方自治法改正待ちでようやく解散決議した。

5月21日～5月26日 EF-XXIV

- 5月25日 東京豊大ワングル部「死のシゴキ」事件。
- 6月 1日 福岡県山野炭鉱ガス爆発237人死亡。
- 3日 佐藤首相、内閣を改造。
- 米国衛星船、宇宙遊泳に成功。
- 10日 第7回参院通常選挙が公示された。
- 19日 アルジュリアでクーデター起る。
- 7月 3日 吉展ちゃん誘かい容疑者小原保が犯行自供。
- 4日 第7回参院通常選挙の投票が行われた。
- 14日 米、マリーナ4号火星の近接撮影に成功。
- 23日 東京都議会出直し選挙の投票、結果は社会党が第1党となつた。
- 8月 4日 平和経済計画会議は今年度の「国民の経済白書」を発表。
- 13日 第47回全国高校野球大会は甲子園球場で開催。
- 14日 韓国国会は日韓条約批准案を承認した。
- 19日 佐藤首相は戦後の首相として初めて沖縄を訪問した。
- 9月 1日 カシミール国境をめぐるインド、パキスタン紛争は両国正規軍の衝突に発展し、重大化する。
- 4日 “アフリカの聖者” シュバイツァー博士死去。
- 19日 第20回国体夏季大会は岐阜市で開催。

- 9月21日 第20回国連総会開れる。
- 22日 バキスタンは国連安保理事会でのインドとの停戦を求める要請を受諾、インドは停戦期限延長を要求した。
- 26日 プロ野球南海ホークスはパ・リーグの優勝をにぎった。
- 10月 5日 日韓基本条約・協定の審議を焦点とする第50臨時国会が召集された。
- 6日 第63回I O C総会がマドリードで開かれた。
- 8日 国鉄は運賃30%値上げを申請
- 12日 日韓条約に反対する社会党、総評系の第2波統一行動が全国に行われた。
- 14日 プロ野球セ・リーグで巨人優勝。
- 21日 スウェーデンの科学アカデミーは東京教育大教授朝永振一郎氏が1965年度ノーベル物理学賞の三人の共同受賞者の一人になることを発表。
- 24日 インドネシア国会では共産党員が追放された。
- 11月 2日 第2回A A首脳会議は無期延期と決った。
- 6日 日韓条約・協定および関係国内三法案は衆院日韓特別委員会で強行採決の結果、自民党委員だけの賛成多数で可決、承認された。

11月12日～11月24日 EF-XXV

§ 4 回答の分析表

4.1 分析の一覧表

表 №	問 №	項 目	白調査票と赤調査票との相違	§5 集計表との対応 (表 №)
1	2 2	オリンピックの評価点数	リストの有無	1 6
2	2 3	オリンピックでよい成績をあげるのに大切なこと	質問文の相違	1 7
3	7	国連の活動状況	質問文の相違	1 9, 2 0
4	15, 119	ベトナム問題の原因	自由回答法と選択法	2 3
5	9	国連活動に責任分担か、利用するのがよいか	質問の順序	2 4 a, b
6	4	国会、政府の政策へ国民の気持が反映しているか	質問の順序	2 5
7	5	どの問題に関心をもつか	質問の順序	2 6 a, e
8	1 3	世界の動向への影響	質問の順序	2 7 a

〔注意〕

- 1) 分析表の数字は各選択法についての回答の個数を示す。
- 2) χ^2 印を付してある欄は χ^2 -検定の補正計算として省かれたものである。
- 3) χ^2 -検定は信頼度 95% のもとで行い、「差」は $\chi^2 - \chi^2_{0.05}$ を表わす。
- 4) 回答の分析に用いた回答の総数は、白調査票：378、赤調査票：382であつて、§5 集計表に用いられたものよりそれぞれ5つつ増している。

4.2 割当別層別による各層の回答数

層 No.	商 工 地 区				住 宅 地 区			
	白 調 査 票		赤 調 査 票		白 調 査 票		赤 調 査 票	
	経 験	未 経 験	経 験	未 経 験	経 験	未 経 験	経 験	未 経 験
1	11	13	8	17	14	11	14	14
2	8	8	11	8	10	8	9	7
3	7	13	10	10	10	11	11	10
4	13	12	11	14	17	11	13	12
5	14	13	17	15	11	12	11	14
6	10	8	8	8	9	10	11	3
7	12	10	12	9	10	11	9	10
8	6	9	8	10	8	11	11	8
9	8	10	9	10	8	11	12	8
	89	96	94	101	97	96	93	94
合 計	185		195		193		187	
	183		197		190		190	
	380				380			

注) 白調査票の回答の合計は 378

赤 " 382

経験ある調査員の回答の合計は 373

未経験の " 387

層 No. は § 3.2 調査員割当別による層別表の群 No. に一致する。

<オ1表> オリンピックの評価点数

問22,122 b) それでは、100点満点で何点ぐらいだつたと思いますか？

リ ス ト	1	百点(満点)	2	九十点ぐらい
	3	八十点ぐらい	4	七十点ぐらい
	5	六十点ぐらい	6	五十点ぐらい
	7	四十点ぐらい	8	三十点ぐらい
	9	二十点ぐらい	10	十点ぐらい
	11	0点(零点)		
	12	その他(記入)		
			13	D. K.

白調査票： リストなし
赤調査票： リストあり

選 択 肢		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	χ^2 検 定		補 正		
調 査 票 の 比 較	商 工 地 区	白	43	68	55	6	ν 4	ν 0	0	0	0	0	0	0	ν 9	χ^2	28.134	χ^2	22.995
																$\chi^2_{.005}$	21.026	$\chi^2_{.005}$	16.919
	赤	16	86	63	15	ν 6	ν 6	0	0	0	0	0	0	3	差	+7.112	差	+6.076	
	住 宅 地 区	白	38	66	55	16	ν 1	ν 1	0	0	0	0	0	ν 1	15	χ^2	16.438	χ^2	13.647
															$\chi^2_{.005}$	21.026	$\chi^2_{.005}$	16.919	
調 査 員 の 比 較	商 工 地 区	経験	23	77	56	16	ν 3	ν 3	0	0	0	0	0	0	ν 5	χ^2	10.423	χ^2	17.121
																$\chi^2_{.005}$	21.026	$\chi^2_{.005}$	16.919
	未経験	36	77	62	5	ν 7	ν 3	0	0	0	0	0	0	ν 7	差	-10.603	差	+0.202	
	住 宅 地 区	経験	26	76	58	17	ν 5	ν 2	0	0	0	0	0	ν 2	12	χ^2	8.266	χ^2	2.052
															$\chi^2_{.005}$	21.026	$\chi^2_{.005}$	16.919	
(参 照)	EFXXIII		137	234	158	46	ν 13	ν 6	ν 2	0	0	ν 1	ν 1	その他 D.K. 24	χ^2	10.664	χ^2	5.938	
																$\chi^2_{.005}$	19.675	$\chi^2_{.005}$	12.592
	EFXXIV の白	81	132	107	22	ν 5	ν 1	ν 0	0	0	ν 0	ν 0	25	差	-9.011	差	-6.653		
	EFXXIII	137	234	158	46	13	ν 6	ν 2	0	0	ν 1	ν 1	24	χ^2	34.531	χ^2	30.668		
															$\chi^2_{.005}$	19.675	$\chi^2_{.005}$	14.067	
(参 照)	EFXXIV の赤	34	171	115	29	11	ν 7	ν 0	0	0	ν 0	ν 0	10	差	+14.856	差	+16.601		

<オ 2 表> オリンピックでよい成績をあげるために大切なこと

赤調査票：問 23 【リスト】 日本の選手がメキシコのオリンピックでよい成績をあげるためには、つぎのうち、どれが一番大切だと思いますか？

リス ト	1	選手ひとりひとりの気持や根性のもち方
	2	スポーツ団体の運営や指導の方法
	3	一般の人の関心や理解
	4	政府の態度や、やり方
	5	その他〔記入〕
		6 D. K.

白調査票では、上記質問文中「メキシコのオリンピック」が
「オリンピック」と変更されている。

選 択 肢			1	2	3	4	5	6	χ^2 検 定		補 正	
調 査 票 の 比 較	商 工 地 区	白	63	75	21	10	ν 3	13	χ^2	4.162	χ^2	3.889
									$\chi^2_{.005}$	11.070	$\chi^2_{.005}$	9.488
	住 宅 地 区	白	58	75	25	15	ν 5	15	χ^2	4.050	χ^2	3.988
									$\chi^2_{.005}$	11.070	$\chi^2_{.005}$	9.488
	商 工 地 区	赤	52	83	30	14	ν 5	11	差	-6.908	差	-5.599
調 査 員 の 比 較	商 工 地 区	経験	56	68	29	15	ν 5	10	χ^2	6.320	χ^2	5.658
									$\chi^2_{.005}$	11.070	$\chi^2_{.005}$	9.488
	住 宅 地 区	未経験	59	90	22	9	ν 3	14	差	-4.750	差	-3.830
	商 工 地 区	経験	59	77	28	13	ν 5	16	χ^2	1.985	χ^2	1.942
									$\chi^2_{.005}$	11.070	$\chi^2_{.005}$	9.488
	住 宅 地 区	未経験	54	66	34	12	ν 5	11	差	-9.085	差	-7.546

<表 3> 国連の活動状況

白調査票：問7〔リスト〕 あなたは、現在の国連（国際連合）の活動状況を考えると、
100点満点で、何点ぐらいのところだと思いますか？

リ ス ト	1	百点（満点）	2	九十点ぐらい
	3	八十点ぐらい	4	七十点ぐらい
	5	六十点ぐらい	6	五十点ぐらい
	7	四十点ぐらい	8	三十点ぐらい
	9	二十点ぐらい	10	十点ぐらい
	11	0点（零点）		
	12	その他〔記入〕		
			13	D. K.

赤調査票：問107〔リスト〕 あなたは、現在の国連（国際連合）の活動状況を考えると、
つぎのうち、どのくらいだと思いますか？

リ ス ト	1	よくやっている
	2	まあよくやっているほう
	3	あまりよくやっていない
	4	よくやっていない
	5	その他〔記入〕
	6	D. K.

選択肢の対応	白調査票	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	赤調査票		1		2		3		4				5	6

選 択 肢		1	2	3	4	5	6	χ^2 検 定		補 正		
調査票の比較	商工地区	白	14	70	45	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{0}$	54	χ^2	9.842	χ^2	6.561
									$\chi^2_{0.05}$	11.070	$\chi^2_{0.05}$	7.815
	住宅地区	赤	8	55	66	$\frac{1}{3}$	$\frac{1}{2}$	61	差	-1.228	差	-1.254
									χ^2	6.356	χ^2	5.756
	住宅地区	白	11	69	34	$\frac{1}{7}$	$\frac{1}{5}$	67	$\chi^2_{0.05}$	11.070	$\chi^2_{0.05}$	7.815
		赤	6	68	49	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{3}$	53	差	-4.714	差	-2.059
調査員の比較	商工地区	経歴	7	73	58	$\frac{1}{1}$	$\frac{1}{0}$	44	χ^2	16.369	χ^2	12.820
									$\chi^2_{0.05}$	11.070	$\chi^2_{0.05}$	7.815
	住宅地区	未経歴	15	52	53	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{2}$	71	差	+5.299	差	+3.332
									χ^2	2.455	χ^2	0.379
	住宅地区	経歴	6	75	42	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{4}$	63	$\chi^2_{0.05}$	11.070	$\chi^2_{0.05}$	7.815
		未経歴	11	62	41	$\frac{1}{7}$	$\frac{1}{4}$	57	差	-8.615	差	-7.437

＜表4表＞ ベトナム問題の原因

赤調査票：問119 それでは、このようなベトナム問題の原因は何だと思いますか？

1	自由陣営（アメリカ）の侵略である
2	共産陣営（国際共産主義運動）の侵略である
3	北ベトナムの侵略である（ベトコンはおもに北ベトナムの手先のゲリラである）
4	南ベトナムの内部での民族解放運動である（ベトコンは南ベトナム政府のやり方に対する民族運動である）
5	南北ベトナムのただの民族的な争いである
6	その他〔記入〕
7 D. K.	

白調査票：自由回答法（§5 集計表を参照のこと）
 赤調査票：選択肢法（上記）

白調査票においては、「8不明」、「9宗教問題」、「10 自由陣営と共産陣営の対立」、「11 ベトナム国力の弱さ」、「12 あいまいな答」、「6 いろいろな原因が混合したもの」——をすべて「6その他」としてまとめて合計した。

選 択 肢			1	2	3	4	5	6	7	χ^2 検 査		補 正	
調 査 票 の 比 較	商 工 地 区	白	22	5	3	4	1	51	99	χ^2	55.099	χ^2	
										$\chi^2_{0.05}$	12.592	$\chi^2_{0.05}$	
	住 宅 地 区	赤	28	16	10	22	18	18	83	差	+42.507	差	
										χ^2	52.067	χ^2	
										$\chi^2_{0.05}$	12.592	$\chi^2_{0.05}$	
										差	+39.475	差	
調 査 員 の 比 較	商 工 地 区	経 験	27	13	8	19	8	32	76	χ^2	13.084	χ^2	
										$\chi^2_{0.05}$	12.592	$\chi^2_{0.05}$	
	住 宅 地 区	未 経	23	8	5	7	11	37	106	差	+0.492	差	
										χ^2	9.352	χ^2	
										$\chi^2_{0.05}$	12.592	$\chi^2_{0.05}$	
										差	-3.240	差	

< 表 5 > 国連活動に責任分担か、利用するのがよいか

問 9, 109 日本と国連との間の関係について、つぎのような意見があります。……

a) まず

「国連の活動が正しいと思えば、日本は国際監視員の派遣、基地の提供、海外への派兵、などのことをして、できるだけ責任を分担すべきである」

というのですが、あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか？

b) それでは、

「日本としては、外交交渉などでうまく立廻り、犠牲を払わないで、国連を利用するのがよい」

という意見に、あなたは賛成ですか、それとも反対ですか？

1 賛成（できるだけ責任を分担する）

2 反対

3 その他（記入）

4 D. K.

〔法律上 現在は海外派兵はできない〕

質問の順序 { 白調査票： a), b) の順
赤調査票： b), a) の順

a) 責任分担

選 択 肢			1	2	3	4	χ^2 検 定		補 正	
調 査 票 の 比 較	商 工 地 区	白	46	79	ν 6	54	χ^2	2.476	χ^2	2.430
							$\chi^2_{0.05}$	7.815	$\chi^2_{0.05}$	5.911
	商 工 地 区	赤	36	87	ν 7	65	差	-5.339	差	-3.561
							χ^2	0.671	χ^2	0.645
	住 宅 地 区	白	44	89	ν 7	53	$\chi^2_{0.05}$	7.815	$\chi^2_{0.05}$	5.991
	住 宅 地 区	赤	41	81	ν 8	57	差	-7.144	差	-5.346
	商 工 地 区	経験	43	80	ν 5	55	χ^2	1.328	χ^2	0.773
	商 工 地 区	未経験	39	86	ν 8	64	$\chi^2_{0.05}$	7.815	$\chi^2_{0.05}$	5.991
調 査 員 の 比 較	商 工 地 区	経験	43	80	ν 5	55	差	-6.487	差	-5.218
	商 工 地 区	未経験	39	86	ν 8	64	χ^2	0.251	χ^2	0.091
	住 宅 地 区	経験	45	89	ν 7	57	$\chi^2_{0.05}$	7.815	$\chi^2_{0.05}$	5.991
	住 宅 地 区	未経験	40	81	ν 8	53	差	-7.565	差	-5.900

b) 利 用

選 択 肢			1	2	3	4	χ^2 検 定		補 正	
調 査 票 の 比 較	商 工 地 区	白	78	43	ν 6	58	χ^2	1.311	χ^2	1.277
							$\chi^2_{0.05}$	7.815	$\chi^2_{0.05}$	5.991
	商 工 地 区	赤	86	40	ν 6	63	差	-6.504	差	-4.714
	住 宅 地 区	白	84	46	ν 8	55	χ^2	1.490	χ^2	0.183
	住 宅 地 区	赤	87	44	ν 4	52	$\chi^2_{0.05}$	7.815	$\chi^2_{0.05}$	5.991
	住 宅 地 区	赤	87	44	ν 4	52	差	-6.325	差	-5.808
調 査 員 の 比 較	商 工 地 区	経験	82	39	ν 11	51	χ^2	11.177	χ^2	1.990
	商 工 地 区	未経験	82	44	ν 1	70	$\chi^2_{0.05}$	7.815	$\chi^2_{0.05}$	5.991
	商 工 地 区	未経験	82	44	ν 1	70	差	+3.662	差	-4.201
	住 宅 地 区	経験	91	49	ν 4	54	χ^2	2.133	χ^2	0.399
	住 宅 地 区	経験	91	49	ν 4	54	$\chi^2_{0.05}$	7.815	$\chi^2_{0.05}$	5.991
	住 宅 地 区	未経験	80	41	ν 8	43	差	-5.682	差	-5.592

< 表 6 > 国会、政府の政策は国民の気持を反映しているか

問 4, 104 a) こんどは世論のことですが：

ひとくちでいうと、政府の政策は国民の気持をよく反映しているでしょうか？

b) ひとくちでいうと国会は国民の気持をよく反映しているでしょうか？

- | | |
|------------|---------------|
| 1 よく反映している | 2 あるていど反映している |
| 3 反映していない | |
| 4 その他〔記入〕 | 5 D. K. |

質問の順序 { 白調査票： a)、b) の順
赤調査票： b)、a) の順

a) 政 府

選 択 肢			1	2	3	4	5	χ^2 検 定		補 正	
調 査 票 の 比 較	商 工 地 区	白	ν 3	48	94	ν 3	37	χ^2	4201	χ^2	3814
								$\chi^2_{0.05}$	9.488	$\chi^2_{0.05}$	5.991
	住 宅 地 区	赤	ν 4	67	82	ν 2	40	差	-5287	差	-2177
								χ^2	2375	χ^2	1595
	住 宅 地 区	白	ν 3	47	100	ν 3	40	$\chi^2_{0.05}$	9.488	$\chi^2_{0.05}$	5.991
		赤	ν 2	56	85	ν 5	39	差	-7.11	差	-4.396
調 査 員 の 比 較	商 工 地 区	経 験	ν 2	61	94	ν 2	24	χ^2	13215	χ^2	11913
								$\chi^2_{0.05}$	9.488	$\chi^2_{0.05}$	5.991
	住 宅 地 区	未 経	ν 5	54	82	ν 3	53	差	+3.727	差	+5.922
								χ^2	3883	χ^2	1118
	住 宅 地 区	経 験	ν 2	54	102	ν 2	38	$\chi^2_{0.05}$	9.488	$\chi^2_{0.05}$	5.991
		未 経	ν 3	49	83	ν 6	41	差	-5.605	差	-4.873

b) 国 会

選 択 肢			1	2	3	4	5	χ^2 検 定		補 正	
調 査 票 の 比 較	商 工 地 区	白	ν 5	47	89	ν 2	42	χ^2	0.515	χ^2	0.355
								$\chi^2_{0.05}$	9.488	$\chi^2_{0.05}$	5.991
	住 宅 地 区	赤	ν 3	55	91	ν 1	45	差	-8.973	差	-5.636
								χ^2	1.814	χ^2	0.852
	住 宅 地 区	白	ν 7	45	95	ν 3	43	$\chi^2_{0.05}$	9.488	$\chi^2_{0.05}$	5.991
		赤	ν 4	46	98	ν 4	95	差	-7.674	差	-5.139
調 査 員 の 比 較	商 工 地 区	経 験	ν 6	52	95	ν 0	30	χ^2	13.537	χ^2	8434
								$\chi^2_{0.05}$	9.488	$\chi^2_{0.05}$	5.991
	住 宅 地 区	未 経	ν 2	50	85	ν 3	57	差	+4049	差	+2.443
								χ^2	2945	χ^2	1.683
	住 宅 地 区	経 験	ν 5	51	101	ν 5	36	$\chi^2_{0.05}$	9.488	$\chi^2_{0.05}$	7.815
		未 経	ν 6	40	92	ν 2	42	差	-6.543	差	-6.132

<表 7 表> どの問題に関心をもつか

〔リスト〕 <関心>参照

問 5, 105 〔リスト〕 上の段に 8 つの項目があります。

- a) まずあなたは「憲法の問題」に関心をお持ちですか？
（下の段の 1, 2, 3 のどれに当たりますか）
- b) それでは、「選挙」について関心をおもちですか？
- c) 「教育の問題」についてはどうですか？
- d) 「交通の問題」（事故、マヒ）についてはどうですか？
- e) 「物価の問題」についてはどうですか？
- f) 「プロ野球」はどうですか？
- g) 「日本の防衛問題」についてはどうですか？
- h) 「ベトナム問題」についてはどうですか？

	1 あまり 関心がな い	2 関心が あるとい えるだろう	3 非常に 関心があ る	4 その他 〔記入〕	5 D. K.
--	--------------------	------------------------	--------------------	---------------	------------

質問の順序 { 白調査票： a)、b)、c)、d)、e)、f)、g)、h) の順
赤調査票： f)、e)、d)、c)、b)、a)、g)、h) の順

a) 憲法の問題

選 択 肢			1	2	3	4	5	χ^2 検 定		補 正	
調 査 票 の 比 較	商 工 地 区	白	85	68	21	ν 2	9	χ^2	7.557	χ^2	5.404
								$\chi^2_{0.05}$	9.488	$\chi^2_{0.05}$	7.815
	商 工 地 区	赤	87	59	38	ν 0	11	差	-1.931	差	-2.411
	住 宅 地 区	白	97	67	20	ν 2	7	χ^2	42.43	χ^2	39.69
								$\chi^2_{0.05}$	9.488	$\chi^2_{0.05}$	7.815
	住 宅 地 区	赤	82	62	31	ν 3	9	差	-52.45	差	-3.846
調 査 員 の 比 較	商 工 地 区	経験	79	66	30	ν 0	8	χ^2	3.701	χ^2	1.794
								$\chi^2_{0.05}$	9.488	$\chi^2_{0.05}$	7.815
	商 工 地 区	未経験	93	61	29	ν 2	12	差	-5.787	差	-6.021
	住 宅 地 区	経験	85	75	27	ν 2	ν 9	χ^2	3.873	χ^2	3.496
								$\chi^2_{0.05}$	9.488	$\chi^2_{0.05}$	5.991
	住 宅 地 区	未経験	94	54	24	ν 3	ν 7	差	-5.615	差	-24.95

e) 物価の問題

選 択 肢			1	2	3	4	5	χ^2 検 定		補 正	
調 査 票 の 比 較	商 工 地 区	白	12	37	133	ν 0	ν 3	χ^2	4.1159	χ^2	2.983
								$\chi^2_{0.05}$	9.488	$\chi^2_{0.05}$	7.815
	商 工 地 区	赤	18	50	126	ν 0	ν 1	差	-5.3721	差	-4.832
	住 宅 地 区	白	8	36	145	ν 1	ν 2	χ^2	7.0167	χ^2	6.036
								$\chi^2_{0.05}$	9.488	$\chi^2_{0.05}$	5.991
	住 宅 地 区	赤	12	52	121	ν 0	ν 2	差	-24.713	差	+0.05
調 査 員 の 比 較	商 工 地 区	経験	19	41	121	ν 0	ν 2	χ^2	3.0829	χ^2	3.080
								$\chi^2_{0.05}$	9.488	$\chi^2_{0.05}$	7.815
	商 工 地 区	未経験	11	46	138	ν 0	ν 2	差	-6.4051	差	-4.735
	住 宅 地 区	経験	12	42	140	ν 0	ν 4	χ^2	5.9943	χ^2	1.191
								$\chi^2_{0.05}$	9.488	$\chi^2_{0.05}$	5.991
	住 宅 地 区	未経験	8	46	127	ν 1	ν 0	差	-3.4937	差	-4.300

<オ 8 表> 世界の動向への影響

問 13, 113 (リスト) ここに (上の段に) 4 つの事件があります。

- a) まず、イギリスで労働党内閣が出来たことは世界の動きにどのていどの影響を与えているでしょうか (下の段の 1, 2, 3 のうちの、どのていどでしょう) ?
- b) フルシチョフ首相の辞任は世界の動きにどのていどの影響を与えているでしょうか ?
- c) 中華人民共和国 (中共) の核実験はどうでしょう ?
- d) ケネディ大統領の暗殺はどうでしょう ?
- e) それでは、ベトナムの問題はどうでしょう ? (これはリストにあげてない)

		1. 大きな影響 を与えている	2. やや影響を 与えている	3. それほど影 響を与えて いない	4. そ の 他 〔記入〕	5. D. K.
a.	労働党内閣成立	1	2	3	4	5
b.	フ首相の辞任	1	2	3	4	5
c.	中共の核実験	1	2	3	4	5
d.	ケネディの暗殺	1	2	3	4	5
e.	ベトナム問題	1	2	3	4	5

質問の順序 { 白調査票: a)、b)、c)、d)、e) の順
赤調査票: d)、c)、b)、a)、e) の順

a) 労働党内閣成立

選 択 肢			1	2	3	4	5	χ^2 検 定		補 正	
調 査 票 の 比 較	商 工 地 区	白	23	56	42	ν 0	64	χ^2 $\chi^2_{0.05}$	13.142 9.488	χ^2 $\chi^2_{0.05}$	12.138 7.815
		赤	6	64	54	ν 1	70	差	+3.654	差	+43.23
	住 宅 地 区	白	17	71	37	ν 1	67	χ^2 $\chi^2_{0.05}$	4.538 9.488	χ^2 $\chi^2_{0.05}$	4.612 7.815
		赤	14	64	53	ν 1	55	差	-4.950	差	-32.03
調 査 員 の 比 較	商 工 地 区	経験	11	67	50	ν 0	55	χ^2 $\chi^2_{0.05}$	83.43 9.488	χ^2 $\chi^2_{0.05}$	7.387 7.815
		未経験	18	53	46	ν 1	79	差	-1.145	差	-0.428
	住 宅 地 区	経験	15	75	46	ν 1	61	χ^2 $\chi^2_{0.05}$	1.113 9.488	χ^2 $\chi^2_{0.05}$	1.118 7.815
		未経験	16	60	44	ν 1	61	差	-8.375	差	-6.697

§5 集 計 表

5.1 質問の一覧表

	項 目	継 続 または 新問題	質問 番号	「白」、 「赤」との関係 郵便調査、内部相関など	クロス 表の有無	表 番 号
〔1〕 基 本 項 目	性	継続		「白調査票」と「赤調査票」との質問に相異点が無いもの		1
	年齢	"				
	学歴	"				
	職業	"				
	支持政党	"				2
〔2〕 新 聞 テ レ ビ	月ぎめ新聞	継続	1			3
	○特に読む記事	"	2			4
	○印象のあるテレビ・ニュース	"	3			5
〔3〕 政 治 ・ 憲 法	佐藤外交	継続	6			6
	日本の実力を世界に示すためには	"	12			7
	憲法改正	"	25			8
	いよいよ政治をした首相	"	26			9
〔4〕 国 際 題	積極的に外交推進すること	新	10			10
	日本の発言の効果	"	11			11
〔5〕 経 済 問 題	千円札のデザイン	継続	29	郵便調査		12
	景気のよしあし	"	30			13 a,b
	政府の経済政策	"	31			14
〔6〕 オ リ ン ピ ッ ク	オリンピック評価	継続	22	「白」「赤」に相違あり		15;<参照>
	オリンピックの評価点数	"	"			16
	成績をあげるため大切なこと	"	23			17
	オリンピック映画	新	24			18

	項 目	継 続 または 新問題	質 問 番 号	「白」、「赤」との関係 郵便調査、内部相関など	クロス 表の有無	表 番 号
〔7〕 国ベ 連ト ・ナ ム 共	国連の活動状況	継続	7	「白調査票」と「赤調査票」との質問に相違点があるもの		19, 20; <参照>
	中共の国連加盟	"	8			21
	外国の立派な政治家	"	28			22
	ベトナム問題の原因	新	15, 119		自由回答法、選択肢法	23
〔8〕 国政 連治	責任分担と利用	新	9	「白調査票」と「赤調査票」との質問に相違点があるもの	有	24 a.b
	意見反映	継続	4		"	25
〔9〕 関 心	憲法、選挙、教育、交通、物価、野球	継続	5		有	26 a.b.c.d.e.f
	防衛、ベトナム問題	新	"		"	g.h
〔10〕 世の 界影 へ響	労働党、フ首相、中共、ケネディ	継続	13		有	27 a.b.c.d.
	ベトナム問題	新	"		"	e
〔11〕 世平 界和	世界平和によくない国	新	21		有	28 a
	世界平和に熱心な国	"	"		"	b
〔12〕 ベト ナム 問題	ベトナム問題で悪い国	新	14, 118		有	29
〔13〕 戦 争 ・ 米 ソ 関 係	米ソ関係	継続	18, 120	「白調査票」のみの問題	有	30
	日韓関係	"	(EF-XXV) のみ			37
	戦争にまきこまれる危険	"	19, 116		有	31
	攻めてくる国	"	20, 117		"	32 <参照>
〔14〕 ベト ナム 問題	自由陣営と共産陣営の争い	新	16	「白調査票」のみの問題		33
	共産陣営の影響	"	17			34
〔15〕 安保 全障	保障、自衛、実索性	新	114	「赤調査票」のみの問題		35 a.b.c
	安全立場	継続	115			36

5.2 集計表の見方と注意

1. 表の質問の順序は、「白調査票」と「赤調査票」との質文に相違のないものと、あるものと2部（それぞれ〔1〕～〔5〕、〔6〕～〔13〕）および「白調査票」のみの質問〔14〕、「赤調査票」のみの質問〔15〕の順に並んでいる。
2. これまでの調査から継続している質問は、これらの結果を併載し、EF-XXIV のみにとりあげた質問は、記号「新」を付して、その結果のみを示す。
3. 「白調査票」と「赤調査票」との間で、質問の順序が異なっているものや、選択肢について内容的に相関が考えられる質問の間ではクロス表を付した。
4. 質問番号はEF-XXIV において「白質問票」に付した番号である。「赤調査票」の番号で、特に表記してないものは「白調査票」のそれに100を加えればよい。
5. 郵便調査にとりあげられた質問は問21、23、29の3問である。
6. 表中の数字はパーセントを示す。
1965年度EV-XXIVでは、才1欄は「白調査票」、才2欄は「赤調査票」、才3欄では二つの平均のパーセントを示す。

〔 1 〕 基 本 項 目

<オ1表> 性・年齢・学歴・職業

↓	1958		1959		1960		1961		1962		1963		1964		1965				
															白	赤	計		
サンプル数	436	464	751	653	640	682	713	658	674	664	711	671	665	622	373	377	750	811	
男	47	50	49	46	47	51	50	48	49	47	46	48	49	48	53	46	50	48	
女	53	50	51	54	53	49	50	52	51	53	54	52	51	52	47	54	50	52	
20～	18	21	18	17	19	15	16	18	20	16	20	15	19	13	18	19	18	16	
25～	16	13	17	15	18	16	13	13	14	17	13	16	15	16	15	19	17	15	
30～	17	14	12	15	13	14	13	14	15	15	17	14	12	14	14	17	15	15	
35～	10	8	11	13	11	12	14	13	11	9	11	12	13	14	15	11	13	12	
40～	22	16	16	18	18	18	17	18	15	18	14	19	19	17	17	15	16	17	
50～	} 17	16	16	14	11	13	13	15	15	15	14	14	12	12	9	10	10	12	
60～		12	10	8	10	12	14	9	10	10	11	10	10	14	12	9	10	13	
小学	15	18	16	14	13	14	18	14	12	11	16	11	9	9	10	8	9	11	
中学	25	26	30	31	31	28	30	31	33	34	32	29	32	30	29	29	29	30	
高校	40	35	36	38	36	37	33	39	35	34	38	42	42	43	39	41	40	37	
大学	19	20	18	17	17	20	17	15	20	20	13	17	17	18	21	21	21	20	
その他、不明	1	1	0	0	1	1	2	1	0	1	1	1	0	0	1	1	1	2	
専門管理	10	13	12	13	14	13	11	11											
事務	17	16	15	15	19	15	18	17											
小企業主	10	11	10	11	10	10	11	12											
店員	5	4	3	4	4	5	3	4											
工員	11	13	13	14	13	12	12	13											
農業単労	5	2	5	3	4	3	4	5											
主婦	28	25	25	26	25	28	27	27											
学生	} 14	4	3	2	2	2	2	1											
その他、無職		12	14	12	9	12	12	10											
専門管理									3	5	2	4	4	3	4	6	5	4	
62年から大企業ホワイトカラー									3	3	1	2	2	2	3	4	4	3	
職業分類を中小企ホワイトカラー									16	10	12	13	13	11	14	13	14	10	
変更中小企・家族従業員									4	8	5	7	5	5	7	5	6	7	
農業									4	6	5	2	5	5	7	4	5	3	
中 小 企 業 主									0	0	2	1	0	0	0	0	0	一	
大企ブルーカラー									12	12	12	11	13	11	11	11	11	13	
中小企ブルーカラー									8	4	6	8	7	7	7	5	6	4	
学 生									11	12	13	11	13	11	11	10	10	12	
主 婦									2	2	1	2	2	2	3	2	2	*	
無 職									25	28	24	25	27	31	21	27	24	26	
不 明									11	8	16	13	8	11	12	11	12	15*	
単 純 労 働									1	2	1	1	1	1	0	2	1	1	
																		2	

* 学生は無職に含まれる。

＜表2＞ 支持政党 * 1955までは保守派の計

↓	1954	1955	1956	1957	1958	1959	1960	1961	1962	1963	1964	1965			
												白	赤	計	アキ
自 民	— 30	41 34	36 35	38 41	38 38	49 41	32 41	34 44	39 42	39 44	41 45	38 40	39		35
民 社	— —	— —	— —	— —	— —	— —	6 5	6 4	3 4	2 7	4 5	3 3	3		3
社 会	— 34	33 37	32 34	32 26	36 36	32 35	33 38	32 25	31 25	28 30	28 25	25 23	24		27
共 産	— 0	0 1	1 1	1 1	0 0	1 0	0 1	0 0	1 1	1 1	1 0	1 0	1		2
公 明	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	4 1	2 3	5 4	4		4
な し	— 27	15 16	20 19	21 22	16 17	11 11	21 12	21 20	19 21	21 13	18 18	23 23	23		24
他 D.K.	— 9	11 12	11 11	8 10	10 9	7 13	8 3	7 7	7 7	5 4	6 4	5 7	6		5

〔 2 〕 新聞・テレビ

<オ3表> 問1, 101 月ぎめ新聞、併読を含む

始めに、新聞のことをうかがいます。あなたのお宅で、月ぎめでおとりになっている新聞は、なに新聞ですか？

↓	1955		1956		1957		1958		1959		1960		1961		1962		1963		1964		1965			XXV
	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ	Ⅸ	Ⅹ	Ⅺ	Ⅻ	Ⅼ	Ⅽ	Ⅾ	Ⅿ	ⅰ	ⅱ	ⅲ	ⅳ	ⅴ	ⅵ	ⅶ	ⅷ	ⅸ	ⅹ
朝 日	32	29	27	31	28	29	32	33	27	30	32	28	30	27	28	28	27	34	27	33	34	35	35	32
毎 日	25	26	22	27	21	25	24	21	22	22	18	23	21	19	20	23	21	20	18	20	17	16	16	19
読 売	37	35	36	40	35	35	41	39	37	39	38	36	39	38	38	36	40	40	40	40	36	38	37	35

XXⅢのうち、産経（併読を含む）11%、日経（"）5%、東京（"）6%、
また、朝日のみ22%、毎日のみ13%、読売のみ28%、月ぎめ紙なし4%。
XXⅣのうち、産経（併読を含む）11%、日経（"）8%、東京（"）7%、
又、朝日のみ21%、毎日のみ10%、読売のみ27%、月ぎめ紙なし。
XXⅤのうち、産経（併読を含む）8%、東京（"）6%、日経（"）5%、
又、朝日のみ24%、毎日のみ13%、読売のみ26%

<オ4表> 問2, 102 特に読む記事（重複してよむを含む）

最近どんな問題に、特に気をくばって、新聞を読んでいらつしやいますか？
（具体的におつしやつて下さい）

1965 { XXⅤでは 日韓26. ベトナム5. 物価2. 交通3. 特になし38.
よまぬ1. 無答1.
XXⅣでは 都議会29. ベトナム問題28. 物価問題4. 特になし29.
よまぬ5. 無答0.

1964 { XXⅢでは 物価問題10. 内閣交代8. 交通問題3. ベトナム問題2.
原潜寄港2. 特になし35. よまぬ6. 無答0.
XXⅡでは 物価問題5. 交通問題7. ミコヤン来日3. 野球3.
特になし15. よまぬ10. 無答8.

1963	XXI では	ケネディ暗殺 2 6. 物価問題 6. 総選挙 5. 鶴見事故 4. 交通事故 3. 特になし 1 0. よまぬ 1 6. 無答 3.
	XX では	誘拐事件 3 1. 交通問題 4. 野球 3. 原子力潜水艦寄港 2. 善枝ちゃん事件 2. 特になし 2. よまぬ 1 1. 無答 1 3.
1962	XIX では	キューバ問題 9. 交通問題 7. 社会党大会 3. 物価の上昇 3. 株 3. 特になし 1 8. よまぬ 1 4. 無答 7.
	XVIII では	交通問題 1 5. 米人工衛星成功 7. 三河島事故 5. 参院選挙 5. ラオス問題 5. 原水爆 4. 特になし 1 2. よまぬ 1 1. 無答 4.
1961	XVII では	池田東南ア訪問 5. 原水爆 9. 物価高 9. 交通事故 5. 特になし 1 9. よまぬ 1 3. 無答 3.
	XVI では	池田訪米 1 5. 小児マヒ 4. 政防法 2. 水害 2. 特になし 1 7. よまぬ 8. 無答 6.
1960	XV では	選挙 2 5. 浅沼事件 2. 米大統領選挙 2. 安保 1. 特になし 2 4. よまぬ 4.
	XIV では	安保改正 4 1. 雅樹ちゃん誘拐事件 2 7. パリ首脳会談 8. U 2 機 3. 三池争議 2.
1959	XIII では	伊勢湾台風 1 6. 社会党内紛 1 1. 安保改正 7. 勤評 3. 月ロケット 2.
	XII では	内閣改造 1 7. 選挙の結果 3.
1958	XI では	皇太子妃 2 7. 警職法 1 4. 勤評 6.
	X では	国会開散 1 7. 日ソ漁業交渉 9. 道德教育勤評 6.
1957	IX では	人工衛星 4 3. 汚職 3.
	VIII では	原水爆実験 2 2. 全購連汚職 9. 南極越冬 3.

<表5> 問3. 103 特に印象にあるテレビニュース（重複含む）

それでは、最近特に印象に残ったテレビのニュースは何ですか？（具体的におつしやつて下さい）

特に印象にあるテレビのニュース（重複を含む）項目の次の数字は%

- 1965 { 日韓条約4 0. ベトナム3. テレビなし3. テレビのニュースはみない3 0.
アキ
- 1965 { ベトナム問題2 4. 都議会1 4. 山の遭難2. 農大ワンゲル2. 室蘭タン
ハル { カー火災1. 中共核実験1. テレビなし3. テレビのニュースはみない2 5.
- 1964 { 内閣交代1 5. オリンピック1 2. 原潜寄港2. 物価値上げ2. ベトナム
アキ { 問題2. テレビなし3. テレビのニュースはみない3.
- 1964 { ミコヤン来日6. 皇太子夫妻メキシコ訪問5. ケネディ暗殺4. 交通事故4.
ハル { 国鉄の事故2. テレビなし5. テレビのニュースは見ない2 5.
- 1963 { ケネディ暗殺事件7 4. 鶴見事故2 0. 三池事故1 1. 総選挙3. テレビ
アキ { 宇宙中継（通信衛星）3. テレビなし4. テレビのニュースは見ない9.
- 1963 { 誘拐事件（吉展ちゃん事件）3 9. 人工衛星打上げ6. 善枝ちゃん事件4.
ハル { 交通問題1. テレビなし9. テレビのニュースは見ない2 1.
- 1962 { キューバ問題8. タンカー衝突6. 池田首相訪欧5. 交通事故4. 社会党
アキ { 大会3. テレビなし9. テレビのニュースは見ない2 5.
- 1962 { 三河島事故4 9. 「オーロラク」打上げ1 0. ガガーリン来日5. 交通事
ハル { 故2. テレビなし1 2. テレビのニュースは見ない1 6.
- 1961 { 池田東南ア訪問1 3. アレキサンドラ王女来日4. 原水爆4. 物価上昇1.
アキ { 交通事故4. テレビなし1 6. テレビのニュースは見ない2 3.
- 1961 { 池田渡米1 6. 小児マヒ9. 風水害5. デモ（政防法）3. 交通事故2.
ハル { テレビなし1 8. テレビのニュースは見ない2 0.
- 1960 { 浅沼事件1 8. 三党首会談8. 選挙7. 皇太子外遊5. 山の事故2.
アキ { デモ2. テレビなし2 8. テレビのニュースは見ない1 1.

〔 3 〕 政治，憲法

< 表 6 > 問 6, 106 佐藤外交

佐藤内閣はいろいろの外交問題をうまくやつていくでしょうか、どうでしょうか？

↓	1964 ア キ	1965		
		ハ ル		
		白	赤	計
うまくやるだろう	10	5	4	5
あるていどうまくやるだろう	30	40	45	42
解決できないだろう	16	25	22	24
他	15	5	3	4
D. K.	29	25	26	25

< 表 7 > 問 12, 112 日本の実力を世界に示すためには

〔リスト〕 日本の実力を世界に示すためには、あなたとしては、つぎのうちどれがいちばんよいと思いますか？

〔リスト〕 <日本の実力を世界に示すためには>参照

↓	1964 アキ	1965			アキ
		ハル			
		白	赤	計	
オリンピックでよい成績をあげること	8	—	—	—	—
国際的な芸術祭により作品を出すこと	13	—	—	—	—
万国博覧会を開催すること	14	—	—	—	9
後進国の援助を増大すること	33	41	38	39	12
福祉国家の建設に力を入れること	—	—	—	—	36
南極観測でよい研究をすること	4	13	14	14	3
人工衛星を打ちあげること	5	4	5	5	2
安全な方法で核実験をおこなうこと	6	6	5	6	2
犠牲を払っても、国連の活動に進んで協力すること	—	8	10	9	11
他（どれもないを含む）	6	9	8	8	4
D. K.	11	19	20	19	21

<オ8表> 問25, 125 憲法改正

〔リスト〕 あなたは現在の憲法について、どう思いますか。

(つぎのうち、いちばん近い意見をあげて下さい) ?

〔リスト〕 <憲法改正>参照

↓	1963		1964		1965			アキ
	ハル	アキ	ハル	アキ	白	赤	計	
社会主義的に	11	9	8	12	10	7	9	10
日本の国情にあつた	11	13	13	15	14	12	13	13
小修正した方がよい	46	55	52	50	48	46	47	43
かえるべきでない	9	8	11	10	10	15	12	12
他	2	1	1	0	1	0	1	0
D. K.	21	14	15	13	17	20	18	22

<オ9表> 問26, 126 いちばんよい政治をした首相

〔リスト〕 新しい憲法のもとで、つぎの8人が総理大臣になりました。ど

の人がいちばんよい政治をしたと思いますか？

〔リスト〕 <いちばんよい政治をした人>参照

↓	1958 アキ	1959	1960	1961	1962	1963	1964	1965			アキ
								ハ	ル	計	
片山	4	3 3	3 3	3 1	2 2	1 2* (2)**	2* (3)**	2	1	1	1
芦田	0	1* 1	— —	— 0	0 0	0 0 (1)	0 (1)	0	0	0	0
吉田	54	45 42	37 47	42 39	44 37	35 35 (15)	45 (13)	48	42	45	37
鳩山	11	22* 21	26 22	19 22	19 16	14 17 (14)	14 (14)	8	11	10	8
石橋	2	3 3	5 3	2 2	3 4	2 1 (4)	1 (4)	1	2	1	2
岸	7	5 4	3 2	1 2	2 2	3 3 (4)	1 (5)	3	3	3	2
池田	—	— —	— 4	5 9	7 10	12 11 (14)	8 (20)	10	9	10	14
佐藤	—	— —	— —	— —	— —	— — —	— —	1	1	1	1
D. K.	17	17 18	20 15	23 19	18 22	29 28	}29	21	25	23	31
他	5	4 8	6 3	5 6	5 7	4 3		6	6	6	4

鳩山：1959年3月死去、 芦田：1959年6月死去

* いちばんよい政治をした人にあげられた%

** そのほかよい政治をした人(何人でもあげさせた)にあげられた%

〔 4 〕 国 際 問 題

<オ10表> 問10, 110 積極的に外交推進すること

〔リスト〕 ここにあげたような国際問題について、日本としては、どの程度積極的に外交を推進するのがよいでしょうか？

- a) まずインドネシアとマレーシアの問題についてはどうですか？（この下の段の1, 2, 3, 4のどれに当たりますか）
- b) 米ソ問題についてはどうですか？
- c) ベトナム問題についてはどうですか？
- d) 自由諸国、共産諸国、アジア・アフリカ諸国相互の調整をはかるのはどうですか？

〔リスト〕 <国際問題・外交推進>参照
1965

↓	非常に積極的	積極的	あまり積極的にやらない	ほとんどやらない方	その他	J. K.
インドネシア マレーシア	白 赤 10 9 10	29 35 32	19 13 16	3 2 2	2 2 2	37 39 38
米 ソ	8 8 9	22 26 24	29 26 27	9 10 9	2 2 2	31 28 29
ベトナム	13 17 15	26 29 28	25 20 22	8 8 8	2 2 2	26 24 25
自由共産A.A	13 13 13	30 33 31	16 15 16	5 3 4	2 3 3	34 33 33

<オ11表> 問11, 111 国際問題に対する日本の発言の効果

〔つぎのリスト〕 いまは、日本のとるべき態度をおききましたが、それでは、いまあげたような国際問題に対する日本の発言はどの程度の効果があると思いますか？

- a) まず、インドネシアとマレーシアの問題に対する発言はどの程度の効果があると思いますか？
- b) 米ソ問題に対する日本の発言はどの程度の効果がありますか？
- c) ベトナム問題に対する発言はどうですか？
- d) 自由諸国、共産諸国、アジア・アフリカ諸国相互の調整をはかるのはどうですか？

〔リスト〕

↓	非常に効果あり			効果あり			あまり効果なし			まったく効果なし			その他			D. K.		
インドネシア マレーシア	白 7	赤 6	計 6	白 29	赤 31	計 30	白 30	赤 26	計 28	白 4	赤 3	計 4	白 1	赤 2	計 2	白 29	赤 32	計 30
米 ソ	2	3	2	14	16	15	42	38	40	14	13	14	1	2	1	27	28	28
ベ ト ナ ム	4	6	5	22	23	22	36	36	37	11	10	10	1	1	1	26	24	25
自由共産A.A	3	4	4	30	26	28	28	30	29	6	5	5	1	2	2	32	33	32

〔 5 〕 経 済 問 題

＜ 表 12 表 ＞ 問 29, 129 千円札のデザイン

一昨年（昭和38年）の11月から伊藤博文の入った、千円札が発行されましたが、このお札のもよう（デザイン）をよいと思いますか、悪いと思いますか？

↓	1963 アキ	1964		1965			アキ
		ハル	アキ	白	赤	計	
よいと思う	25	33	41	43	45	44	49
わるいと思う	49	50	33	24	23	24	17
ちやち、おもちやの様	9	—	—	—	—	—	—
まだ見てないのでわからぬ	9	—	—	—	—	—	—
他	6	13	17	21	22	21	16
D. K.	2	4	9	12	10	11	18

＜ 表 13 表 ＞ 問 30, 130 景気のよしあし

a) ひとくちにいつて、この春の景気はよいほうだつたと思いますか、それともわるいほうだつたと思いますか？

↓	(a) い ま								1965			
	1958	1959	1960	1961	1962	1963	1964	ハ 白	ル 赤	計	アキ	
よいほう	6	28 36	40 52	50 20	19 6	13 13	7	3	2	2	1	
普 通	20	26 32	29 21	29 22	24 20	31 33	27	5	8	7	7	
わるいほう	68	36 23	22 17	15 53	50 69	45 47	58	89	87	88	87	
他 D. K.	6	10 9	9 10	6 5	7 5	11 7	8	3	3	3	5	

b) それでは、今後の景気はわるいほうに向うと思いますか、それともよいほうに思いますか？

↓	(b) 今 後								1965							
	1958	1959	1960	1961	1962	1963	1964	ハ 白	ル 赤	計	アキ					
よいほう	35	43	35	22	31	29	12	19	22	35	19	21	22	23	23	22
変らない	23	21	24	31	30	33	17	21	27	30	27	25	31	27	29	30
わるいほう	19	11	13	21	21	22	59	43	34	19	34	37	32	34	33	28
他 D. K.	23	25	28	26	18	16	12	17	17	16	20	17	15	16	15	20

<才14表> 問31, 131 政府の経済政策

ひとくちでいうと、今の政府の経済政策は成功すると思いますか、それとも失敗すると思いますか？

↓	1961	1962		1963		1964		1965			
	アキ	ハ ル	アキ	ハ ル	アキ	ハ ル	アキ	白	ハ ル	赤	計
成功する	15	18	20	19	19	16	11	6	8	7	
失敗する	36	31	18	17	22	25	26	30	26	28	
分らない	30	31	42	44	40	37	38	39	42	40	
他 D. K.	19	20	20	20	19	22	25	25	24	25	

〔 6 〕 オ リ ン ピ ッ ク

＜オ15表＞ 問22, 122 オリンピック評価

〔リスト〕 オリンピックが去年の秋、東京で開かれましたが、あなたは、
外国に恥ずかしくないような、立派なオリンピックができたと思いますか？

〔立派とは成績でなく、設備や準備、運営、接待などをふくむものである。〕

〔リスト〕 オリンピック参照

↓	1959	1960	1961	1962	1963	1964	1965			
							ハ	ル	計	アキ
非常に立派だった(だろう)	10 9	6 5	4 5	6 6	8 9	12 54	47	45	46	44
相当に立派だった(だろう)	51 47	39 35	32 35	37 40	45 57	57 41	46	48	47	47
あまり立派でない	21 30	38 43	49 47	41 37	32 27	21 3	3	4	4	4
とても立派でない	3 4	5 8	8 6	9 7	4 2	2 0	0	0	0	1
Ｄ. K.	13 8	10 8	7 6	5 10	9 5	6 1	3	2	2	3
他	2 2	2 1	0 1	2 0	2 0	2 1	1	1	1	1

＜参 照＞ オリンピック（立派に出来ない理由——重複を含む——）

	1962 アキ	1963 ハル アキ	1964 ハル
交通道路、宿舍、競技場	20	18 9	8
設備の不足、準備不十分、環境、町の美化、住宅建物	13	8 8	6
経済的困難、時期が早い、受入体制悪し、用地、国が せまい	12	7 6	4
道徳心欠如、国民の無関心、役員組織の問題、日本の 現状ではムリ	14	8 5	4
進行状態遅い、計画性がない	2	1 2	0
言葉に関して 接待、マナー	1	0 1	2
な ん と な く	—	— 1	0
他、 D. K.	2	3 5	4

<オ16表> 問22, 122 オリンピックの評価点数 <第1表>リスト参照

それでは、100点満点で何点ぐらいだつたと思いますか？

EF-XXIV では 白調査票 —— リストなし
:
赤調査票 —— リストあり

		0点	10点	20点	30点	40点	50点	60点	70点	80点	90点	100点	D.K.
1964	アキ	0	0	0	0	0	1	2	8	25	38	22	4
1965	白	0	0	0	0	0	0	1	6	29	35	22	7
	ハ	0	0	0	0	0	2	3	8	30	45	9	3
	赤	0	0	0	0	0	1	2	7	30	40	15	5
	計												

<オ17表> 問23, 123 オリンピックでよい成績をあげるために大切なこと

〔リスト〕 日本の選手がオリンピックでよい成績をあげるためには、つぎのうちどれが一番大切だと思いますか？

EF-XXIV では 白調査票 —— 上文で「オリンピック」を「メキシコのオリンピック」と変更
:
赤調査票 —— 上文のまま

〔リスト〕

↓	1964		1965		
	ハ	アキ	ハ	赤	計
*選手ひとりひとりの気持や根生のもち方	34	32	32	28	30
*スポーツ団体の運営や指導の方法	26	30	40	40	40
*一般の人の関心や理解	20	21	12	17	15
*政府や東京都の態度や、やり方	7	7	7	6	6
他、 D. K.	13	10	9	9	9

*印はリストにあげたもの

<オ18表> 問24, 124 オリンピック映画

あなたは、映画「東京オリンピック」をごらんになりましたか？

↓	1965		
	白	赤	計
み た	18	20	19
みない {	60	52	56
	22	28	25

〔 7 〕 国連、中共、ベトナム問題

<オ19表> 問7. 17 国連の活動状況

〔リスト〕 あなたは、現在の国連（国際連合）の活動状況を考えると、

100点満点で、何点ぐらいのところだと思いますか？

〔 EF-XXIV : 白調査票 〕

リス ト	1	百 点（満点）	2	九十点ぐらい
	3	八十点ぐらい	4	七十点ぐらい
	5	六十点ぐらい	6	五十点ぐらい
	7	四十点ぐらい	8	三十点ぐらい
	9	二十点ぐらい	10	十 点ぐらい
	11	0 点（零点）		
	12	その他〔記入〕	13	D. K.

→	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	D. K.	そ 他
点	点	点	点	点	点	点	点	点	点	点	点		
1964 ハル	0	0	0	0	1	8	10	18	16	5	1	41	
1965 ハル 白	0	1	0	1	5	17	20	17	5	1	0	31	1

<オ20表> 問107 〔リスト〕 あなたは、現在の国連（国際連合）の活動状況を考える

と、つぎのうち、どのくらいだと思いますか？

〔 EF-XXIV : 赤調査票 〕

リス ト	1	よくやっている	
	2	まあよくやっているほう	
	3	あまりよくやっていない	
	4	よくやっていない	
	5	その他〔記入〕	6 D. K.

国連の活動状況〔リスト〕

＜参照＞日本の国連における活動状況〔リスト〕

↓	1964 アキ	1965 赤
よくやっている	3	4
まあよくやっている	47	32
あまりよくやっていない	16	30
よくやっていない	3	3
他	1	1
D. K.	25	30

↓	1964 ハル	アキ	↓	1964 ハル	アキ
0点	0	0	60点	11	19
10点	0	0	70点	14	15
20点	1	1	80点	12	8
30点	2	3	90点	4	2
40点	2	6	100点	1	0
50点	11	17	D. K.	42	29

＜オ21表＞ 問8, 108 中共の国連加盟

〔リスト〕 現在、中共（中華人民共和国）は国連に加盟を認められていませんが、あなたはどのように思いますか？

リス ト	1 ただちに加盟させるべきであると思う	
	2 そろそろ加盟を考慮すべきであると思う	
	3 まだ、加盟を考慮すべき時期ではないと思う	
	4 絶対に加盟させるべきでないと思う	
	5 その他〔記入〕	6 D. K.

EF-XXIV では 白調査票 —— リストあり
:
赤調査票 —— リストなし

〔リスト〕

↓	1964		1965		
	ハル	アキ	白	赤	計
ただちに加盟	19	25	21	23	22
そろそろ考慮すべき	37	39	33	32	32
まだ時期でない	15	9	10	7	9
絶対させるべきでない	2	3	2	2	2
他、 D. K.	27	24	34	36	35

＜表22＞ 問28, 128 外国の立派な政治家

a)〔リスト〕 つぎのうちで、いちばん立派な政治家だと思う人はどの人ですか？

リ ス ト	ウイルソン(イギリス首相)	エアハルト(西ドイツ首相)
	コスイギン(ソ連首相)	ジョンソン(アメリカ大統領)
	ドゴール(フランス大統領)	ナセル(アラブ連合大統領)
	毛沢東(中共首席)	リストはア・イ・ウ・エ・オ順

EF-XXIVでは、白調査票——人名の説明(括弧内)を省く
:
赤調査票——人名の説明を入れる
EF-XXVでは、人名の説明(括弧内)を省く

〔リスト〕

↓	1960	1961	1962	1963	1964	1965			
						ハ 白	ル 赤	計	ア キ
ウイルソン	— —	— —	— —	— — —	— — 4	5	5	5	3
エアハルト	— —	— —	— —	— 0* (1)**	0* (2)** 3	2	3	2	3
コスイギン	— —	— —	— —	— — —	— — 0	1	1	1	1
ジョンソン	— —	— —	— —	— — —	1 (6) 20	7	9	8	11
ドゴール	1 1	4 0	1 2	2 1 (6)	3 (8) 12	12	11	11	8
ナセル	— —	— —	— —	— — —	— — 1	2	3	2	2
毛沢東	4 3	2 2	2 2	2 1 (1)	1 (5) 7	10	7	9	6
ネール	30 25	25 32	28 20	23 8 (20)	10 (19) —	—	—	—	—
マクミラン	2 2	1 2	2 4	1 2 (7)	— — —	—	—	—	—
ケネディ	— 3	5 7	9 14	20 55 (15)	53 (14) —	—	—	—	—
フルシチョフ	2 2	2 1	1 2	4 2 (14)	4 (13) —	—	—	—	—
アイゼンハワー	13 26	15 12	17 9	— — —	— — —	—	—	—	—
アデナウワー	7 6	5 4	5 4	5 3 (7)	— — —	—	—	—	—
ヒューム	— —	— —	— —	— 0 (1)	0 (2) —	—	—	—	—
D. K.	40 31	41 40	33 40	41 28	}28	49	57	56	57
他	1 1	0 0	2 3	2 0		4	4	5	5

* いちばん立派な政治家としてあげられた%。 ** そのほか立派な政治家(何人でもあげさせた)にあげられた%。

ケネディ: 1963年11月死去、ネール: 1964年5月死去
一印のあるものは調査なし。

<参照> b) 外国の立派な政治家

人 名	1960年アキ あげた人の数 (%)	1961 ハル あげた人の数 (%)	1961 アキ あげた人の数 (%)	1962 ハル あげた人の数 (%)	1964 アキ あげた人の数 (%) *
ケ ネ デ イ	— —	— —	— —	— —	209 (34)
チ ャ ー チ ル	49 (7)	53 (7)	56 (8)	61 (9)	53 (9)
ネ ー ル	— —	— —	— —	3	54 (9)
リ ン カ ン	32 (5)	30 (4)	25 (4)	42 (6)	44 (7)
ルーズヴェルト	33 (5)	28 (4)	22 (3)	21 (4)	16 (3)
フルシチョフ	— —	— —	— —	— —	16 (3)
ガ ン ジ ー	11 (2)	11 (2)	14 (2)	25 (4)	10 (2)
アイゼンハワー	— —	— —	— —	2 —	9 (1)
ワ シ ン ト ン	11 (2)	4 (1)	6 (1)	12 (2)	7 (1)
アデナウワー	— —	— —	— —	— —	5 (1)
マツカツサー	2 —	1 —	— —	2 —	5 (1)
ス タ ー リ ン	6 (1)	9 (1)	2 —	5 (1)	3
ヒ ッ ト ラ ー	2 —	3 —	4 (1)	3 —	2
なし、D. K.	544 (80)	525 (81)	531 (81)	501 (75)	279 (45)

* 1964 アキでは、サンプル1人からあげられたものが15人あるが省略した

<オ23表> 問15, 119 ベトナム問題の原因

それでは、このようなベトナム問題の原因は何だと思いますか？

- 1 自由陣営（アメリカ）の侵略である
- 2 共産陣営（国際共産主義運動）の侵略である
- 3 北ベトナムの侵略である（ベトコンはおもに北ベトナムの手先のゲリラである）
- 4 南ベトナムの内部での民族解放運動である（ベトコンは南ベトナム政府のやり方に反対する民族運動である）
- 5 南北ベトナムのただの民族的な争いである

〔 EF-XXIVでは 白調査票 —— 自由回答法
: 赤調査票 —— 選択枝法 〕

選択肢 No. 白 赤			1965 年		
			白	赤	750
1	1	自由陣営（アメリカ）の侵略である	13	15	14
2	2	共産陣営（国産共産主義運動）の侵略である	2	9	6
3	3	北ベトナムの侵略である（ベトコンはおもに北ベトナムの手先の ^{ゲリラ} である）	2	6	4
4	4	南ベトナムの内部での民族解放運動である（ベトコンは南ベトナム政府のやり方に反対する民族運動である）	1	12	6
5	5	南北ベトナムのただの民族的な争いである	1	7	4
8	—	不 明	2	—	20
9	—	宗 教 問 題	1	—	
10	—	自由陣営と共産陣営の対立	15	—	
11	—	ベトナム国力の弱さ	2	—	
12	—	あいまいな答	4	—	
6	—	いろいろな原因が混合したもの	3	—	
—	6	そ の 他	—	12	
7	7	D. K.	53	39	46

（問15、ベトナム原因）×（問14、悪い国）

白 調 査 票

ベトナム原因 \ 悪い国	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
1	38	2	3	0	1	0	0	1	2	47
2	1	0	1	0	4	1	0	1	1	9
3	1	0	3	0	0	0	0	2	0	6
4	2	0	1	0	0	0	0	1	1	5
5	2	0	0	0	0	1	0	0	2	5
6	7	0	1	0	2	0	0	1	0	11
7	45	3	18	6	6	5	19	10	85	197
8	2	0	0	0	0	0	2	4	1	9
9	1	0	0	0	1	0	1	1	1	5
10	19	1	6	1	6	6	8	6	4	57
11	2	1	2	0	0	0	2	0	1	8
12	4	1	0	0	0	1	3	3	2	14
計	124	8	35	7	20	14	35	30	100	373

赤 調 査 票

ベトナム原因 \ 悪い国	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
1	44	0	0	0	0	1	1	3	6	55
2	8	1	5	2	8	1	1	2	6	34
3	5	0	6	4	3	1	2	0	3	24
4	17	4	0	2	3	0	7	3	7	43
5	13	0	3	2	4	1	2	0	2	27
6	16	2	2	2	2	4	7	2	9	46
7	18	3	7	4	8	7	3	3	95	148
計	121	10	23	16	28	15	23	13	128	377

問 14（悪い国）

- 選 択 肢 No.
- 1 アメリカ
 - 2 北ベトナム
 - 3 南ベトナム
 - 4 中共
 - 5 ベトコン
 - 6 ソ連
 - 7 全部悪い
 - 8 その他
 - 9 D.K.

〔 8 〕 国 連 ， 政 治

< 才 2 4 表 > 問 9, 109 a) 国連活動に日本は責任を分担すべきか

「国連の活動が正しいと思えば、日本は国際監視員の派遣、基地の提供、海外への派兵、などのことをして、できるだけ責任を分担すべきである」
 というのですが、あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか？

〔 法律上 現在は海外派兵はできない 〕

〔 EF-XXIV では : 白調査票 — 質問順序は a)、b) の順
 赤調査票 — 質問順序は b)、a) の順 〕

選択肢		1965 ハル		
		白	赤	計
1	賛 成	24	20	22
2	反 対	45	44	44
3	その他	3	4	4
4	D K	28	32	30

問 9, 109 b) 国連を利用するのがよいか

「日本としては、外交交渉などでうまく立廻り、犠牲を払わないで、国連を利用するのがよい」

という意見に、あなたは賛成ですか、それとも反対ですか？

選択肢		1965		
		白	赤	計
1	賛 成	43	46	44
2	反 対	23	22	23
3	その他	4	2	3
4	D . K	30	30	30

(問9 国連利用) × (問9 国連推進)

白調査票

推進 利用	1	2	3	4	計
1	45	94	7	15	161
2	33	43	5	5	86
3	3	7	0	4	14
4	8	22	1	81	112
計	89	166	13	105	373

赤調査票

推進 利用	1	2	3	4	計
1	49	93	8	22	172
2	22	49	6	7	84
3	2	5	1	1	9
4	3	20	0	88	111
計	76	167	15	118	376

<表25> 問4, 104 国会、政府の政策は国民の気持を反映しているか

a) ひとくちでいうと、政府の政策は国民の気持をよく反映しているでしょうか？

b) ひとくちでいうと国会は国民の気持をよく反映しているでしょうか？

〔 白調査票 — 質問の順序は a)、b) の順
赤調査票 — 質問の順序は b)、a) の順 〕

→	1954	1955	1956	1957	1958	1959	1960	1961	1962	1963	1964	1965		
												ハル	赤	計
反 映	18	41 34	26 38	38 34	32 33	32 28	23 42	33 34	29 37	34 38	37 34	28 34	28 34	34
国 会	—	35 —	— 33	33 30	33 29	32 25	22 61	25 30	24 32	28 47	34 33	28 29	28 30	30
新 聞	71	73 61	— 69	66 67	68 69	68 65	65 61	60 —	64 —	— —	— —	— —	— —	—
反 映	60	39 38	42 33	31 34	33 39	42 36	49 26	39 41	47 38	45 47	39 47	51 44	48 46	46
国 会	—	38 —	— 36	32 33	33 38	38 35	47 12	42 37	44 37	44 34	41 45	49 50	49 51	51
新 聞	9	6 10	— 4	5 6	7 5	6 6	8 10	11 —	8 —	— —	— —	— —	— —	—

例えば、1954年では政府は「反映」18%、「反映せず」60%、「その他、無答」22%、なお反映というのは「あるていと反映」を含む。

小 1960(XV)、1963(XI)の国会は「選挙の結果は国民の気持を反映するか」

* 1964(XXIII)の「あるていと反映」は政府31. 国会29.

* 1965(XXIV)の「あるていと反映」は、政府 { 白26 赤32. 国会 { 白25. 26白 赤27. 25赤

* 1965(XXV)の「あるていと反映」は、政府31. 国会26.

(問4 国会) × (問4 政府)

白調査票

政府 国会	1	2	3	4	5	計
1	4	4	2	0	2	12
2	0	63	21	3	5	92
3	0	17	154	1	9	181
4	0	0	4	1	0	5
5	2	11	10	1	59	83
計	6	95	191	6	75	373

赤調査票

政府 国会	1	2	3	4	5	計
1	1	3	2	0	1	7
2	2	74	14	3	7	100
3	2	36	139	1	10	188
4	0	1	1	2	1	5
5	1	8	10	1	57	77
計	6	122	166	7	76	377

- 選択肢
- 1 よく反映している
 - 2 ある程度反映している
 - 3 反映していない
 - 4 その他
 - 5 D. K.

〔 9 〕 どの問題に関心をもつか

<表26> 問5, 105〔リスト〕 <関心>参照

〔リスト〕 上の段に8つの項目があります。

a) まずあなたは「憲法の問題」に関心をお持ちですか？

（下の段の1, 2, 3のどれに当たりますか）

b) それでは、「選挙」について関心をおもちですか？「社会保障の問題」*

c) 「教育の問題」についてはどうですか？

d) 「交通の問題」（事故、マヒ）についてはどうですか？

e) 「物価の問題」についてはどうですか？

f) 「プロ野球」はどうですか？

g) 「日本の防衛問題」についてはどうですか？

h) 「ベトナム問題」についてはどうですか？

* EF-XXV では「選挙」が「社会保障の問題」にかわる。

1965 アキ

白調査票 — 質問順序は a), b), c), d), e), f), g), h) の順
EF-XXIV では：
赤調査票 — 質問順序は f), e), d), c) b), a), g), h) の順

a) 憲法問題 〔リスト〕

b) 選挙 〔リスト〕

↓	1962	1963	1964	1965		
				ハル	赤	アキ
あまり 関心なし	53 45	49 46	45	48 44 46		34
関心があるといえるだろう	35 34	38 39	40	36 32 34		46
非常に 関心がある	9 15	9 12	13	11 18 14		10
他	0 0	1 0	0	1 1 1		3
D. K.	3 6	3 3	2	4 5 5		7

↓	1962	1963	1964	1965		
				ハル	赤	計
あまり 関心なし	29 27	28 28	25	28 25 26		
関心があるといえるだろう	44 44	44 45	44	44 39 42		
非常に 関心がある	25 26	25 26	26	25 34 29		
他	0 1	1 0	0	0 1 0		
D. K.	2 2	2 1	2	3 1 3		

c) 教育問題 (リスト)

↓	1962	1963	1964	1965			
				ハル 白 赤 計	アキ		
あまり 関心なし	17 16	22 14	16	23 21 22	18		
関心があると いえるだろう	37 37	37 42	41	38 35 36	42		
非常に 関心がある	44 43	37 42	41	35 42 39	35		
他	0 0	1 0	0	1 0 0	0		
D. K.	2 4	3 2	2	3 2 3	5		

d) 交通問題 (リスト)

↓	1962	1963	1964	1965			
				ハル 白 赤 計	アキ		
あまり 関心なし	4 7	10 9	5	8 6 7	11		
関心があると いえるだろう	25 31	35 40	27	32 30 31	39		
非常に 関心がある	70 60	54 49	66	58 63 61	46		
他	0 0	0 0	0	0 0 0	0		
D. K.	1 2	1 2	2	2 1 1	4		

e) 物価問題 (リスト)

↓	1964	1965			
		ハル 白 赤 計	アキ		
あまり 関心なし	5 3	6 8 7	7		
関心があると いえるだろう	25 14	19 27 23	26		
非常に 関心がある	69 82	74 64 69	64		
他	0 0	0 0 0	0		
D. K.	1 1	1 1 1	3		

f) プロ野球 (リスト)

↓	1962	1963	1964	1965			
				ハル 白 赤 計	アキ		
あまり 関心なし	43 43	48 44	44 53	47 47 47	50		
関心があると いえるだろう	27 27	26 28	27 30	27 31 29	24		
非常に 関心がある	29 28	24 27	27 15	24 21 22	20		
他	0 0	0 0	0 0	1 0 1	1		
D. K.	1 2	2 1	2 2	1 1 1	5		

g) 防衛問題 (リスト)

↓	1965			
	ハ	ル	計	アキ
あまり 関心なし	35	38	37	36
関心があると いえるだろう	39	35	37	36
非常に 関心がある	19	19	19	17
他	1	1	0	0
D. K.	6	7	7	11

h) ベトナム問題 (リスト)

↓	1965			
	ハ	ル	計	アキ
あまり 関心なし	15	20	18	29
関心があると いえるだろう	37	33	35	40
非常に 関心がある	43	44	43	21
他	0	0	0	1
D. K.	5	3	4	9

b)* 社会保障の問題
(リスト)

↓	1965
あまり 関心なし	16
関心があると いえるだろう	47
非常に 関心がある	29
他	0
D. K.	8

白調査票 (問5物価) × (問5憲法)

憲法 物価	1	2	3	4	5	計
1	14	5	1	0	0	20
2	38	22	8	1	2	71
3	126	107	32	2	9	276
4	0	0	0	1	0	1
5	0	0	0	0	5	5
計	178	134	41	4	16	373

赤調査票

憲法 物価	1	2	3	4	5	計
1	21	6	2	0	1	30
2	59	30	9	0	3	101
3	84	85	57	3	13	242
4	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	3	3
計	164	121	68	3	20	376

- 選択枝 1 あまり関心なし
2 関心があるといえるだろう
3 非常に関心がある
4 その他
5 D. K.

〔10〕 世界の動向への影響

＜オ27表＞ 問13. 113 〔リスト〕 ＜世界の動向への影響＞参照

〔リスト〕 ここに（上の段に）4つの事件があります。

- a) まず、イギリスで労働党内閣が出来たことは世界の動きにどのていどの影響を与えているでしょうか（下の段の1, 2, 3のうちの、どのていどでしょう）？
- b) フルシチョフ首相の辞任は世界の動きにどのていどの影響を与えているでしょうか？
- c) 中華人民共和国（中共）の核実験はどうでしょうか？
- d) ケネディ大統領の暗殺はどうでしょうか？
- e) それでは、ベトナムの問題はどうでしょうか？〔これはリストにあげていない〕

〔EF-XXIVでは： 白調査票 — 質問順序は a) b) c) d) e) の順
赤調査票 — 質問順序は d) c) b) a) e) の順〕

a) 労働党内閣成立 〔リスト〕

選 択 肢	1964	1965		
	XXIII	XXIV		
		白	赤	計
大きな影響	15	11	5	8
やゝ影響	36	34	34	34
それほどでない	23	21	28	25
その他	0	0	0	0
D. K.	26	34	33	33

b) フ首相の辞任 〔リスト〕

選 択 肢	1964	1965		
	XXIII	XXIV		
		白	赤	計
大きな影響	38	26	21	24
やゝ影響	32	31	39	35
それほどでない	14	20	18	19
その他	0	0	0	0
D. K.	16	23	22	22

c) 中共の核実験 〔リスト〕

選 択 肢	1964	1965		
	XXIII	XXIV		
		白	赤	計
大きな影響	55	55	53	54
やゝ影響	24	22	25	23
それほどでない	8	6	7	7
その他	0	0	0	0
D. K.	13	19	15	16

d) ケネディの暗殺 〔リスト〕

選 択 肢	1964	1965		
	XXIII	XXIV		
		白	赤	計
大きな影響	64	64	66	65
やゝ影響	20	18	19	18
それほどでない	7	6	6	6
その他	1	0	0	0
D. K.	8	12	10	11

e) ベトナム問題 (リスト)

選 択 肢	1965		
	XXIV		
	白	赤	計
大きな影響	62	63	62
やゝ影響	17	18	17
それほどでない	4	3	4
その他	1	0	1
D. K.	16	16	16

(問13, 113 フ首相) × (問13, 113 労働党) 表中の数字は実数

白調査票

労働党 フ首相						計
	1	2	3	4	5	
1	26	43	10	0	18	97
2	8	59	30	0	18	115
3	4	24	36	0	9	73
4	0	0	0	1	0	1
5	1	1	2	0	83	87
計	39	127	78	1	128	373

赤調査票

労働党 フ首相						計
	1	2	3	4	5	
1	13	42	11	0	12	78
2	5	64	57	1	20	147
3	2	18	35	0	14	69
4	0	0	0	1	0	1
5	0	3	2	0	76	81
計	20	127	105	2	122	376

- 選択肢 1. 大きな影響
2. やゝ影響
3. それほどでない
4. その他
5. D. K.

〔11〕 世界平和

＜オ28表＞ 問 21, 121 a) 世界平和によくない国

〔リスト〕 世界平和の問題に対する態度をくらべたとき、一番よくないのは、どの国だと思いますか、これ以外の国でも結構です？

〔EF-XXIVでは： 白調査票 — 質問の順序は a)、b) の順
赤調査票 — 質問の順序は b)、a) の順〕

〔リスト〕 ＜世界平和＞参照

選 択 肢		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
		アメリカ	アラブ 連合	イギリス	インド	スイス	ソ 連	中 共	西 ドイツ	日 本	フランス	その他	D. K.
1965	白	14	1	0	0	0	19	19	0	1	1	4	41
	赤	15	0	0	0	0	17	20	0	1	0	5	42
	計	15	0	0	0	0	18	19	0	1	1	5	41

問 21, 121 b) 世界平和に熱心な国

〔同じリスト〕では、世界平和の問題について、一番熱心なのは、どの国だと思いますか、これ以外の国でも結構です？

〔リスト〕 ＜世界平和＞参照

選 択 肢		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
		アメリカ	アラブ 連合	イギリス	インド	スイス	ソ 連	中 共	西 ドイツ	日 本	フランス	その他	D. K.
1965	白	12	1	4	4	10	2	1	0	25	2	7	32
	赤	10	0	3	5	9	2	0	0	25	2	7	37
	計	11	0	3	4	10	2	1	0	25	2	7	35

(問21, 121 熱心な国) × (問21, 121 よくない国) 表中の数字は実数

白調査票

よくない国 熱心な国													計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
1	1	0	0	0	0	18	14	0	1	1	0	11	46
2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
3	3	0	0	0	0	4	5	0	1	0	0	3	16
4	4	0	0	0	0	2	4	0	0	0	1	3	14
5	3	2	1	0	0	11	10	0	0	0	1	10	38
6	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	6
7	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
8	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
9	18	1	0	0	0	24	18	0	1	0	6	25	93
10	1	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	3	8
11	5	1	0	0	0	3	4	0	0	1	7	4	25
12	9	0	0	0	0	7	10	0	0	1	1	91	119
計	53	4	1	0	0	71	70	0	3	3	16	152	373

赤調査票

よくない国 熱心な国													計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
1	1	0	0	0	0	11	14	1	0	0	0	11	38
2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
3	3	0	0	0	0	3	3	0	0	0	1	0	10
4	4	0	0	0	0	2	7	0	0	0	0	4	17
5	10	0	0	0	0	6	8	0	0	1	3	5	33
6	3	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	1	7
7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
8	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
9	16	0	0	1	1	22	22	1	0	1	4	26	94
10	1	0	0	0	0	1	4	0	0	0	0	1	7
11	6	0	0	0	0	3	2	0	0	0	6	7	26
12	10	0	0	0	0	13	12	0	1	0	2	101	139
計	56	0	0	1	1	64	72	2	3	2	18	157	376

〔12〕 ベトナム問題で悪い国

<才29表> 問14, 118

〔リスト〕 ベトナムのことが、いろいろ話題になつていますが、現在、ベトナム問題で一番悪いのは、つぎのうちどこですか？

そのつぎに悪いのは、どこですか？

EF-XXIVでは：	リストの項目 の順序	白調査票 —	アメリカ、南ベトナム、ベトコン、 北ベトナム、中共、ソ連
		赤調査票 —	ソ連、中共、北ベトナム、ベトコン、 南ベトナム、アメリカ

〔リスト〕

1965

	アメリカ	北 ベトナム	南 ベトナム	中共	ベトコン	ソ連	全部	その他	D. K.
一番悪い国	白 33	2	9	2	5	4	10	8	27
	赤 32	3	6	4	8	4	6	3	34
	計 33	2	8	3	6	4	8	6	30
二番悪い国	白 8	8	8	7	10	9	8	9	33
	赤 8	9	6	6	9	9	7	5	41
	計 8	9	7	7	9	9	7	7	37

〔13〕 戦争，米ソ関係

〔EF-XXIVでは：質問の順序〕
 白調査票 — 問18, 問19, 問20,
 赤調査票 — 問116, 問117, 問120

＜オ30表＞ 問18, 120 米ソ関係

〔リスト〕 アメリカとソ連との間の関係は、現在はどうでしょうか？

〔リスト〕 ＜アメリカとソ連との関係＞参照

↓	1959 アキ	1960	1961	1962	1963	1964	1965				アキ
							ハル	白	赤	計	
よ い	24	2 4	11 3	7 11	11 32	26 13	10	9	9		10
どちらとも いえない	52	31 40	57 42	53 49	54 52	52 62	55	58	57		51
わる い	12	56 44	18 45	29 25	18 4	10 18	22	22	22		22
D. K. 他	12	11 12	14 10	11 15	17 12	12 7	13	11	12		17

＜オ31表＞ 問19, 116 日本が戦争にまきこまれる危険

最近の世界の動きをみると、日本が戦争にまきこまれる危険は、へつてきた
 と思いますか、それともそのような危険がふえたと思いますか？

↓	1955		1961 アキ	1962		1963		1964 ハル	1965		
	ハル	アキ		ハル	アキ	ハル	アキ		白	赤	計
へ つ た	31	27	14	20	17	20	32	37	10	13	11
かわらぬ	29	26	17	23	27	28	28	27	28	29	29
ふ え た	19	22	39	39	37	30	17	18	44	42	43
他	} 21	25	3	2	1	2	1	2	2	3	3
D. K.			27	16	18	20	22	16	16	13	14

1955と1962以降では質問文の言葉使いが少しことになる。

(問19 戦争危険) × (問18 米ソ関係) 表中の数字は実数

白調査票

米ソ関係 戦争危険	1	2	3	4	5	計
1	8	18	11	0	1	38
2	8	68	20	2	7	105
3	16	99	39	1	8	163
4	1	4	3	0	0	8
5	3	15	10	0	31	59
計	36	204	83	3	47	373

赤調査票

米ソ関係 戦争危険	1	2	3	4	5	計
1	5	21	18	1	3	48
2	6	73	23	0	6	108
3	20	96	38	3	4	161
4	0	10	1	0	0	11
5	2	18	4	0	24	48
計	33	218	84	4	37	376

選択肢 問19 戦争危険

- 1 危険へつた
- 2 かわらない
- 3 危険ふえた
- 4 その他〔記入〕
- 5 D. K.

問18 米ソ関係

- 1 よいほう
- 2 どちらともいえない
- 3 ゆるいほう
- 4 その他〔記入〕
- 5 D. K.

<才32表> 問20, 117 攻めてくる国

さしあたり、どのような国から、攻めてくる可能性が考えられますか？

	1965		
	白	赤	計
考えられない	20	20	20
ソ 連	16	16	17
中国(中共)	12	16	14
北朝鮮	2	1	2
共産諸国	8	6	7
韓 国	2	1	1
台湾(国府)	0	0	0
フィリッピン	0	0	0
アメリカ	2	1	1
単に朝鮮	1	1	1
その他	4	4	4
D. K.	33	34	33

<参照> 1965年以前

	Ⅱ			Ⅶ		Ⅳ		Ⅲ	
	アキ	1957 ハル	Ⅱ	1956 アキ	Ⅶ	1955 アキ	Ⅳ	1955 ハル	Ⅲ
考えられない	31	46	39	34	Ⅶ	37	Ⅳ	29	Ⅲ
共産側	43	32	30	46	Ⅶ	39	Ⅳ	45	Ⅲ
南鮮、台、比、米	2	2	3	2	Ⅶ	3	Ⅳ	4	Ⅲ
その他、不明	29	22	30	22	Ⅶ	21	Ⅳ	21	Ⅲ

(問20, 117 攻めてくる国) × (問19, 116 戦争危険) 表中の数字は実数

白調査票

戦争危険 攻めてくる国						計
	1	2	3	4	5	
0	7	34	26	4	3	74
1	13	11	31	1	6	62
2	3	13	27	1	1	45
3	2	1	4	1	0	8
4	4	7	17	0	1	29
5	0	1	5	0	0	6
6	0	0	0	0	1	1
7	0	0	0	0	0	0
8	0	1	5	0	0	6
9	0	0	3	0	0	3
10	1	7	9	0	0	17
11	8	30	36	1	47	122
12	0	0	0	0	0	0
計	38	105	163	8	59	373

赤調査票

戦争危険 攻めてくる国						計
	1	2	3	4	5	
0	12	37	21	3	4	77
1	11	20	29	0	1	61
2	2	14	41	2	3	62
3	2	0	1	0	0	3
4	0	7	16	0	1	24
5	1	0	1	0	0	2
6	0	0	0	0	0	0
7	0	0	0	0	0	0
8	2	1	0	0	0	3
9	1	1	2	0	0	4
10	0	3	8	1	2	14
11	17	26	42	5	37	127
12	0	0	0	0	0	0
計	48	109	161	11	48	377

問20, 117 攻めてくる国

問19, 116 戦争危険

- 選
択
肢
No.
- 0 考えられない
 - 1 ソ連
 - 2 中共
 - 3 北朝鮮
 - 4 共産諸国
 - 5 韓国
 - 6 台湾(国府)
 - 7 フィリッピン
 - 8 アメリカ
 - 9 単に朝鮮
 - 10 その他
 - 11 D. K.

- 1 危険へつた
- 2 かわらない
- 3 危険ふえた
- 4 その他
- 5 D. K.

〔14〕 ベトナム問題

〔BF-XXIVでは白調査票のみこの二つの質問をふくむ〕

＜オ33表＞ 問16 自由陣営と共産陣営との争い

「ベトナム問題は結局のところ自由陣営と共産陣営との争いである」

というのですが、あなたは、この意見に賛成ですか、それとも反対ですか？

	1965		
	白	赤	計
賛成（自由陣営と共産陣営の争い）	55	—	55
反対（そうでない）	20	—	20
そ の 他	2	—	2
D. K.	23	—	23

（問16 ベトナムあらそい）×（問14 悪い国） 表中の数字は実数

白調査票のみ

ベトナムあらそい	悪い国	1 アメ リカ	2 北ベ ナム	3 南ベ ナム	4 中共	5 ベト コン	6 ソ連	7 全部 悪い	8 その 他	9 D.K.	計
1 賛成（自由陣営と共産陣営の争い）		81	5	19	3	14	9	20	24	28	203
2 反対（そうでない）		29	3	8	3	4	4	5	4	16	76
3 そ の 他		3	0	2	0	1	0	0	1	2	9
4 D. K.		11	0	6	1	1	1	10	1	54	85
計		124	8	35	7	20	14	35	30	100	373

<表 3 4表> 問 17 日本に対する共産陣営の影響

〔リスト〕 ベトナム問題について、つぎのような2つの意見があります。

あなたはどちらの意見に賛成ですか？

リ ス ト	1	甲の意見「米国がベトナム問題から、まったく手を引けば、日本に対する共産陣営の影響が強くなる」
	2	乙の意見「米国がベトナム問題から、まったく手を引いても、日本に対する共産陣営の影響にかわりはない」

〔リスト〕

	1965		
	白	赤	計
甲 の 意 見	20	—	20
乙 の 意 見	50	—	50
そ の 他	2	—	2
D . K .	28	—	28

〔15〕 安全保障

〔EF-XXIVでは：赤調査票のみこれらの質問をふくむ〕

<才35表> 問114 a) 他国をあてにしないで自力で守るか

日本の国の安全について、つぎのような意見があります。

「日本の国の安全は、他国をあてにしないで、あくまでも自分の力で守るべきである」

というのですが、あなたはこの意見に賛成ですか反対ですか？

	1965		
	白	赤	計
賛 成	—	62	62
反 対	—	18	18
そ の 他	—	4	4
Ｄ．Ｋ．	—	16	16

問114 b) 武装をやめて中立か、自衛力をもつか

〔リスト〕 それでは、つぎのような2つの意見がありますが、あなたはどちらの意見に賛成ですか？

リ ス ト	1 甲の意見「一切の武装をやめて、中立をかたく守っていくのが、日本の国の自衛のためには一番よい」
	2 乙の意見「自由主義陣営に属し、独自の自衛力をもっていくのが日本の国の自衛のためには一番よい」

〔リスト〕

	1965		
	白	赤	計
甲 の 意 見	—	43	43
乙 の 意 見	—	37	37
そ の 他	—	3	3
Ｄ．Ｋ．	—	17	17

問114 c) 実現の可能性

(b) で1, 2と答えた人に)

それでは、今の国際状況のもとでは、このようなことが実際にできることだ
と思いますか

	1965		
	白	赤	計
で き る	—	39	39
できない	—	27	27
そ の 他	—	1	1
D. K.	—	33	33

<オ36表> 問115 安全を守るための日本の立場

(リスト) 日本の安全を守るために、日本はつぎのうち、どういう立場を
とるべきでしょうか?

リ	1	どんな国際紛争にも、まきこまれないようにする
ス	2	日本に直接関係のある問題については積極的に外交を推進する
ト	3	平和を維持するためには、どんな問題についても積極的に外交を推進する

(リスト)

	1965		
	白	赤	計
紛争にまきこまれないように	—	17	17
関係ある問題には外交推進	—	26	26
平和維持のため外交推進	—	39	39
その他の	—	1	1
D. K.	—	17	17

<オ37表> (リスト) 日本と韓国との関係は、これからさき、どうなるでしょうか?

(リスト) <日本と韓国との関係>参照

↓	1960		1961		1962		1963		1965
	ハル	アキ	ハル	アキ	ハル	アキ	ハル	アキ	アキ
よくなる	51	44	35	44	30	34	27	24	24
かわらない	21	25	30	26	33	29	30	37	30
わるくなる	4	5	5	4	6	5	7	6	10
D. K. 他	24	26	30	26	31	32	36	33	36

§ 6 調査票リスト

§ 4、§ 5の質問文にあるリストはここでは、省略した。

実物の大きさはB5版で右上とじである。リストは右から左へ読むようになっている。

<div style="display: flex; justify-content: space-between; width: 100%;"> < 関 心 > </div>		
<div style="text-align: center;">「ベトナム問題」について</div> <div style="text-align: center;">「日本の防衛問題」について</div> <div style="text-align: center;">「プロ野球」について</div> <div style="text-align: center;">「物価の問題」について</div>	<div style="text-align: center;">「交通の問題 (事故・マヒ)」について</div> <div style="text-align: center;">「教育の問題」について</div> <div style="text-align: center;">「選挙」について</div> <div style="text-align: center;">「憲法の問題」について</div>	<div style="text-align: center;">1. あまり関心がない</div> <div style="text-align: center;">2. 関心があるといえるだろう</div> <div style="text-align: center;">3. 非常に関心がある</div>
<div style="display: flex; justify-content: space-between; width: 100%;"> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: center;">< 国際問題に対する日本の発言 ></p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; padding: 0 10px;"> <div style="width: 20%;">自由諸国・共産諸国 アジア・アフリカ 諸国の問題</div> <div style="width: 20%;">ベトナム問題</div> <div style="width: 20%;">米ソ問題</div> <div style="width: 20%;">インドネシアと マレーシアの問題</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; padding: 0 10px;"> <div style="width: 20%;">4. まったく効果はないと思う</div> <div style="width: 20%;">3. あまり効果はないと思う</div> <div style="width: 20%;">2. 効果があると思う</div> <div style="width: 20%;">1. 非常に効果があると思う</div> </div> </div> <div style="width: 10%; text-align: center;">(日本の発言)</div> </div>		
<div style="display: flex; justify-content: space-between; width: 100%;"> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: center;">< 国際問題・外交推進 ></p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; padding: 0 10px;"> <div style="width: 20%;">自由諸国・共産諸国 アジア・アフリカ 諸国の問題</div> <div style="width: 20%;">ベトナム問題</div> <div style="width: 20%;">米ソ問題</div> <div style="width: 20%;">インドネシアと マレーシアの問題</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; padding: 0 10px;"> <div style="width: 20%;">4. はほとんどやらない方がよい</div> <div style="width: 20%;">3. あまり積極にやらない方がよい</div> <div style="width: 20%;">2. 積極的にやるのがよい</div> <div style="width: 20%;">1. 非常に積極的にやるのがよい</div> </div> </div> <div style="width: 10%; text-align: center;">(日本は外交を)</div> </div>		

<日本の実力を世界に示すためには>

1. 犠牲を払つても、国連の活動に進んで協力すること
2. 後進国に対する援助を増大すること
3. 南極観測でよい研究をすること
4. 人工衛生を打ち上げる
5. 安全な方法で核実験をおこなうこと

<世界の動向への影響>

イギリス労働党内閣の成立
フルシチョフ首相の辞任
中華人民共和国の核実験
ケネディ大統領の暗殺

<アメリカとソ連との関係>

1. よいほう
2. どちらともいえない
3. わるいほう

- x — x — x —
- (世界の動きに対して)
1. 大きな影響を与えている
 2. やや影響を与えている
 - 3.それほど影響を与えていない

<世界平和>

1. アメリカ
2. アラブ連合
3. イギリス
4. インド
5. ソ連
6. ソ連
7. 中華人民共和国(中共)
8. 西ドイツ
9. 日本
10. フランス

<これ以外の国でもよい>

<オリンピック>

1. 非常に立派だった
2. 相当、立派だった
3. あまり立派ではなかった
4. 立派だったとはとてもいえない

<憲 法 改 正>

- | | | | |
|-----------------------|--------------------------------|---------------------------------|---------------------------|
| 4. いまの憲法は絶対にかえるべきではない | 3. 時期をみて、実情にあわせない点だけ小修正したほうがいい | 2. ただちに、日本の本来の国情にあつた憲法に改正すべきである | 1. 将来は、もつと社会主義的な憲法にすべきである |
|-----------------------|--------------------------------|---------------------------------|---------------------------|

<いちばんより政治をした人>

佐	池	岸	石	鳩	吉	芦	片
藤	田		橋	山	田	田	山
栄	勇	信	湛	一			
作	人	介	山	郎	茂	均	哲

<日本と韓国との関係>

- | | | |
|------------|-----------|---------|
| 3. わるくなくなる | 2. かわるらない | 1. よくなる |
|------------|-----------|---------|

印 刷

株式会社 荘 文 社

東京都新宿区戸塚町 1-481

電話 東京 (202) 7 3 4 1

Research REPORT

General Series No.15

EFFECTS OF MASS MEDIA OF COMMUNICATION III

—An Analysis of Response Error—

TÔKEI-SÛRI KENKYÛZO

Institute of Statistical Mathematics

4-6-7 Minami-Azabu, Minato-Ku, Tokyô, Japan

78
22